

99th

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

Philharmony

October 2025
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

10

終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自身からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.



「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す(カマナリマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください



こちらのQRコードからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:

 公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.

 私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご注意ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.

 大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.

 発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.

 演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."

 演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.

 適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.

 場内での録音、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)

 補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.

 「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、周囲の方への配慮にご協力をお願いいたします
When shouting "Bravo," please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS
OCTOBER 2025

10

- 3 **速報** N響100年——おもな記念事業
- 7 「N響100年記念 個人サポーター」の募集について
- 9 [公演プログラム] Aプログラム
- 23 [公演プログラム] Bプログラム
- 29 [公演プログラム] Cプログラム
- 40 [速報] 2026-27定期公演プログラム／特別公演

- 2 NHK交響楽団メンバー
- 34 2025年11月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 36 チケットのご案内(定期公演2025年9月～2026年6月)
- 37 2025-26定期公演プログラム
- 45 特別公演／各地の公演
- 49 曲目解説執筆者／お詫びと訂正／N響の出演番組
- 50 特別支援・特別協力・賛助会員
- 54 みなさまの声をお聞かせください!
- 55 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 56 Program A
- 62 Program B
- 66 Program C

- 70 The Subscription Concerts Program 2025-26
- 73 N響関連のお知らせ
- 74 N響の社会貢献
- 75 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:バーヴェ・ヤルヴィ

正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太

ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

- 青木 調
飯塚歩夢
○字根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
東條太河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理
横山俊朗
米田有花

- * 清水伶香
* 湯原佑衣

ヴィオラ

- ◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
* 栗林衣李
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍

チェロ

- ◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拓志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

- ◎吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

- ◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真步
中村淳二

オーボエ

- ◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
* 中村周平
和久井 仁

クラリネット

- ◎伊藤 圭
◎松本健司
* 堂面宏起
山根孝司

ファゴット

- ◎宇賀神広宣
◎水谷上総
* 大内秀介
佐藤由起

森田 格

ホルン

- ◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

- ◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

- ◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行

テューバ

池田幸広

ティンパニ

- ◎久保昌一
☆植松 透

打楽器

- 石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉

ライブラリアン

- 沖 あかね
木村英代

こちらのQRコードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。



<https://www.nhko.or.jp/about/member/index.html>

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、*契約)

100年 NHK 郷音

100th

NHK SO

NHK SYMPHONY ORCHESTRA

TOKYO

1926 - 2026

NHK 交響楽団

おもな記念事業

2026 Jan. — 2027 Jan.

NHK Symphony Orchestra 100th Anniversary:
Major Commemorative Events

2026年、N響は創立100年を迎えます

NHK交響楽団は1926年10月5日、「新交響楽団」の名称のもと、

日本初の本格的なプロオーケストラとして産声を上げました。

以来、世界一流の指揮者やソリストたちと数多く共演を重ねる中で、

我が国を代表するオーケストラに成長。

1951年にNHKの支援を受けるようになってからは、

「N響」の愛称で皆様に愛されてまいりました。

そして、数々の名演に彩られたその歴史は、

2026年に「創立100年」という大きな節目を迎え、

2026年1月から、さまざまな記念事業を開催します。

長い歴史を支え応援していただいたすべての方々への感謝と「次の100年」に向けた

私たちからのメッセージを込めた「N響の特別な1年」にどうぞご期待ください。



「100年」を彩る特別な公演

「ドラゴンクエスト IV」コンサート

時代を超えて愛される名作ゲームの楽曲を、オーケストラ版の初録音を担ったN響の演奏で

2026年2月27日(金) 7:00pm 東京芸術劇場 指揮:下野竜也

※他会場でも別日程で開催予定

N響 大河ドラマ & 名曲コンサート<特別編>

楽譜が失われた「源義経」テーマ曲(武満徹・没後30年)復活演奏など、貴重な企画が満載

2026年3月5日(木) 7:00pm NHKホール 指揮:沖澤のどかほか

※他会場でも別日程で開催予定

日本・シンガポール外交関係樹立60周年 シンガポール公演

両国の佳節を記念し、24年ぶりにシンガポール公演を開催

2026年4月29日(水・祝) 7:30pm エスプラネード 指揮:下野竜也/ピアノ:反田恭平

「N響100年記念曲」の新作委嘱、初演

新作を国内外の2人の作曲家、杉山洋一(7月)とミロスラフ・スルスカ(12月)に委嘱し、世界初演

2026年 7月 3日(金) 7:00pm 東京オペラシティ (Music Tomorrow 2026)

2026年12月10日(木) 7:00pm、11日(金) 7:00pm サントリーホール (2026年12月定期公演Bプログラム)

指揮:杉山洋一(7月)、マキシム・エメリヤニチュフ(12月)/チェロ:ニコラ・アルトシュテット(12月)

N響 × ポケモン クラシックコンサートツアー

2026年に誕生から30年を迎える「ポケモン」とN響の夢のコラボによる全国4か所のコンサートツアー

2026年8月21日(金) 7:00pm 東京芸術劇場

2026年8月22日(土) 3:30pm 京都コンサートホール

2026年8月23日(日) 2:00pm ザ・シンフォニーホール

2026年8月24日(月) 7:00pm アクロス福岡

指揮:横山 奏

創立100年記念 マーラー《交響曲第2番「復活」》

N響100回目の創立記念日(10/5)を力強く祝福するマーラーの名作

2026年10月3日(土) 6:00pm、4日(日) 2:00pm NHKホール

指揮:ファビオ・ルイージ/ソプラノ:イン・ファン/メゾ・ソプラノ:タマラ・マムフォード/合唱:新国立劇場合唱団

歌劇「トスカ」(演奏会形式)

数々の名門歌劇場を率いたルイージがN響で初めてオペラを指揮

2026年10月10日(土) 4:00pm、12日(月・祝) 4:00pm サントリーホール ※サントリーホール主催の公演です

指揮:ファビオ・ルイージ/トスカ:エレナ・スティッキーナ/カヴァラドッシ:リカルド・マッシ/

スカルピア男爵:アンブロジーノ・マエストリ/アンジェロッチェ:妻屋秀和/教会の番人:井出壮志朗/

スポレッタ:糸賀修平/合唱:東京オペラシンガーズ/児童合唱:NHK東京児童合唱団ほか

巨匠たちによるブラームス交響曲全曲演奏

99歳プロムシュテットと86歳エッセンバッハによるブラームス交響曲の全曲演奏

2026年10月30日(金) 7:00pm 東京芸術劇場 (交響曲第2番、第4番)

2026年10月31日(土) 4:00pm 東京芸術劇場 (交響曲第3番、第1番)

指揮:ヘルベルト・プロムシュテット(30日)、クリストフ・エッセンバッハ(31日)

ルイージ指揮「N響ニューイヤーコンサート」

新たな100年の幕開けを名歌手たちと華やかに飾る、ルイージ&N響初のニューイヤーコンサート

2027年1月10日(日) 3:00pm、11日(月・祝) 3:00pm NHKホール

※他会場でも別日程で開催予定

指揮:ファビオ・ルイージ/ソプラノ:カミラ・ニールンド/テノール:クラウス・フロリアン・フォークト

「100年」ならではの定期公演での特別企画

邦人作曲家シリーズ（B・Cプログラム 2026年2月～5月）

N響ともゆかりの深い昭和期の邦人作曲家を特集

2026年2月13日(金) 7:00pm、14日(土) 2:00pm (2026年2月Cプログラム)

NHKホール（ムソルグスキー〈近衛秀麿編〉／組曲「展覧会の絵」ほか） 指揮：ゲルゲイ・マダラシュ

2026年4月24日(金) 7:00pm、25日(土) 2:00pm (2026年4月Cプログラム)

NHKホール（外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント | 伊福部 昭／交響譚詩 ほか） 指揮：下野竜也

2026年5月14日(木) 7:00pm、15日(金) 7:00pm (2026年5月Bプログラム)

サントリーホール（山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」 | 須賀田磯太郎／交響的序曲 ほか） 指揮：山田和樹

フランス・シュミット／7つの封印の書（2026年9月Aプログラム）

ファビオ・ルイージのライフワーク、フランス・シュミット畢竟の声楽つき大作で2026-27シーズン開幕を飾る

2026年9月12日(土) 6:00pm、13日(日) 2:00pm NHKホール

指揮：ファビオ・ルイージ／ヨハネ(テノール)：ミヒャエル・ラウレンツ／神の声(バス)：ダーザイト・シュテフェンス／

ソプラノ：迫田美帆／メゾ・ソプラノ：藤井麻美／テノール：伊藤達人／バス：加藤宏隆／合唱：新国立劇場合唱団

ベートーヴェン交響曲全曲演奏（Cプログラム・「第9」演奏会 2026年9月～12月）

2027年の没後200年に先駆け常連指揮者のタクトで、ベートーヴェンの交響曲を全曲演奏

2026年 9月25日(金) 7:00pm、26日(土) 2:00pm

NHKホール（交響曲第1番／第3番「英雄」） 指揮：ファビオ・ルイージ

2026年10月23日(金) 7:00pm、24日(土) 2:00pm

NHKホール（交響曲第8番／第5番「運命」ほか） 指揮：クリストフ・エッセンバッハ

2026年11月13日(金) 7:00pm、14日(土) 2:00pm

NHKホール（交響曲第2番／第6番「田園」ほか） 指揮：トッガン・ソヒエフ

2026年12月 4日(金) 7:00pm、5日(土) 2:00pm

NHKホール（交響曲第4番／第7番） 指揮：シャルル・デュトワ

2026年12月17日(木)、18日(金)、19日(土)、20日(日)、22日(火) 開演時刻未定

NHKホール（交響曲第9番「合唱つき」） 指揮：マレク・ヤノフスキ

公演以外の記念事業

「N響100年史」の刊行（2026年秋）

「100年の歩み」を克明に記した記念誌を発行

『フィルハーモニー』誌での「N響百年史」、公式ホームページでの「NHK交響楽団のあゆみ」の連載を基に、詳細な年表や貴重な写真とあわせて、N響100年の軌跡をたどります。

N響「演奏会記録」公開（時期未定）

N響100年の全演奏会の記録をデジタル化
オンラインのデータベースとして公開し、検索にも対応します。

このほかにも記念事業を計画中です。お楽しみに。

お問い合わせ

N響ガイド … 0570-02-9502

営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください

nhkso.or.jp

出演者プロフィール・公演詳細は
N響ホームページで公開中



N響ホームページ

N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします
WEBチケットN響の
「利用登録」からご登録ください



WEBチケットN響

Follow us on



- やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません
- 料金・発売日等チケットについての詳細は、決まり次第、N響ホームページ等でお知らせいたします ●未就学児の入場はお断りしています
- 掲載情報は2025年10月現在のもので、●公演に関する最新の情報は、N響ホームページでご確認ください

「N響100年記念 個人サポーター」の募集について

10/31(金)まで



NHK交響楽団は、1926年10月5日に「新交響楽団」の名称で結成されて以来、今日に至るまで、世界一流の指揮者やソリストたちと数多く共演を重ね、国内最高峰のオーケストラとしてたくさんのファンの皆様可愛さまでまいりました。

そしてついに、数々の名演に彩られたその歴史は、2026年に「創立100年」という大きな節目を迎えます。2026年1月からのこの特別な1年に、N響は記念となる公演の数々をはじめ、さまざまな記念事業を行う予定です。

多彩な取り組みを通じて、長い歴史を支え応援していただいたすべての方々への感謝と「次の100年」に向けた私たちからのメッセージをより多くの皆様にお届けたく、これらの活動を応援してください「N響100年記念 個人サポーター」を広く募集し、歴史の1ページにお名前を刻まさせていただきます。ぜひ、皆様の温かい応援をお願い申し上げます。

募集期間 2025年4月～10月31日(金)まで

寄付額 1口10万円(最大5口まで)

- ※ お申し込み方法など詳しくは、N響ホームページまたはお申し込みページ(右記QRコード/外部サービス「コングラント」のページとなります)をご覧ください。
- ※ N響は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は国内における税制上の優遇措置の対象となります。
- ※ 「N響100年記念事業」の概要は、本誌3～6ページで紹介しています。



Special Thanks

NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 MIZUHO みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT EAST

東京海上ホールディングス株式会社

株式会社 ポケモン

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

NTT East, Inc.

Tokio Marine Holdings, Inc.

The Pokémon Company

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

PROGRAM

A

第2046回

NHKホール

10/18^土 6:00pm10/19^日 2:00pm

指揮	ヘルベルト・ブロムシュテット
ソプラノ	クリスティーナ・ランツハマー*
メゾ・ソプラノ	マリー・ヘンリエット・ラインホルト*
テノール	ティルマン・リヒディ*
合唱	スウェーデン放送合唱団
コンサートマスター	長原幸太
カバーコンダクター	ミシェル・タバシュニク♦

◆ミシェル・タバシュニク：現在、北オランダ管弦楽団およびブリュッセル・フィルハーモニック名誉指揮者。これまでに、グルベンキアン管弦楽団音楽監督、ロレーヌ・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、アンサンブル・アンテルコンタンポラン音楽監督を歴任。ジュネーブ音楽院でピアノ、作曲、指揮を学んだのち、ヘルベルト・フォン・カラヤンによって定期的にベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に招かれ、スペイン放送交響楽団ではイーゴリ・マルケヴィチの、BBC交響楽団ではビエール・ブーレーズのアシスタントを務めた。N響とは1989年と1992年に共演している。

ストラヴィンスキー

詩篇交響曲(日本語字幕付き) [21']

- I 主よ、私の祈りをお聞きください
 II 私は耐えて主に望みを置いた
 III ハレルヤ、主を賛美せよ

——休憩(20分)——

メンデルスゾーン

交響曲 第2番 変ロ長調 作品52

「讃歌」(日本語字幕付き)* [65']

- 第1曲 シンフォニア(マエストロ・コン・モートーア
 レグロ・アレグレット・ウン・ポーコ・アダットーア
 アダージョ・レリジョーソ)

- 第2曲 息ある者はこぞって主を賛美せよ
 第3曲 主に^{あがな}贖われた人々は唱えよ
 第4曲 唱えよ、贖われた人々よ 主によって
 あらゆる悲嘆から贖われた人々よ
 第5曲 私は耐えて主に望みを置いた
 第6曲 死の綱が私たちに絡みつき
 第7曲 夜は過ぎ去り
 第8曲 いざやともに、神に感謝せよ
 第9曲 それだから私は、私の歌を歌い
 第10曲 もろもろの民よ、主に帰せよ

字幕：星野宏美

字幕操作：Zimaku プラス

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profiles**ヘルベルト・ブロムシュテット(指揮)**

現役で活躍する世界最高齢指揮者のひとり。1927年、スウェーデン人の両親の間にアメリカのマサチューセッツ州で生まれた。2歳からスウェーデンで育つ。ストックホルム王立音楽院、ウプサラ大学、ジュリアード音楽院などで学ぶ。タングルウッドではバーンスタインにも師事した。ノールショピング交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、デンマーク放送交響楽団、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団、スウェーデン放送交響楽団、サンフランシスコ交響楽団、北ドイツ放送交響楽団(現NDRエルブフィルハーモニー管弦楽団)、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団などのオーケストラのシェフを歴任したあと、音楽監督や首席指揮者の役職には就かず、フリーの立場で指揮活動を行う。近年は、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団にも定期的に客演している。

NHK交響楽団とは1981年に初共演。1986年からN響名誉指揮者を務め、2016年に桂冠名誉指揮者となる。N響との親密な関係は40年以上続いている。今回取り上げるグリーグ、ニルセン、シベリウスらの北欧音楽の演奏は彼のライフ・ワークであり、メンデルスゾーンやブラームスらのドイツ音楽は彼の十八番のレパートリーといえる。なかでもメンデルスゾーンの《交響曲第2番「讃歌」》は、昨年のザルツブルク音楽祭でもウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と演奏した。3つのプログラムでの巨匠の至芸が楽しみである。

[山田治生／音楽評論家]

クリスティーナ・ランツハマー(ソプラノ)

ドイツ、ミュンヘン生まれ。ミュンヘン音楽大学卒業。さらにシュトゥットガルト音楽大学で研鑽を積み、ドゥニャ・ヴェイゾヴィチに師事した。バロックから現代音楽までレパートリーが広く、モーツァルトやワーグナーのオペラをはじめ、コンサートなどでも活躍している。これまでにヘルベルト・ブロムシュテット、クリスティアン・ティーレマン、アラン・ギルバート、マレク・ヤノフスキ、フランツ・ウェルザー・メストなどの指揮で、ヨーロッパ

の著名なオーケストラと多数共演。2016年には、シカゴ・リリック・オペラの《ばらの騎士》ゾフィー役でアメリカ・デビューを果たし、アラン・ギルバート指揮のニューヨーク・フィルハーモニックとも共

演した。2017年、ヘルベルト・ブロムシュテット指揮ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団のバッハ《ミサ曲短調》でソリストを務め、2018年にはキリル・ペトレニコ指揮バイエルン国立歌劇場の《ラインの黄金》に出演するなど、温かくのびやかな声と豊かな表現力で、目覚ましい活躍を続ける。N響とは、2019年11月定期公演のブロムシュテット指揮モーツァルト《ミサ曲短調》で初共演。2022年「N響第9」のソリストを務めた。

[柴辻純子／音楽評論家]

マリー・ヘンリエット・ラインホルト(メゾ・ソプラノ)



深いのにみずみずしく、厚みがあるのに輝かしい——。このように、一般には併存が難しい要素を声に併せ持つドイツのメゾ・ソプラノ。ライブツィヒに生まれ、音楽学の学士号を取得後、2011年から生地のフェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ音楽演劇大学で、エルヴィラ・ドレーセンのもと声楽を学んだ。在学中から注目され、すでに世界の主要オーケストラ、ブロムシュテットやティーレマンをはじめとする主要指揮者との共演を重ねている。2019年以来、バイロイト音楽祭の常連でもある。バッハやヴィヴァルディなどのバロック作品からワーグナーまで無理なく歌いこなすのは、発声が自然なうえ音楽的構築力があるからだ。どの音域にも均質な声を安定して満たすことができる。また、言葉を際立たせ音楽の輪郭を明瞭に描きながら、言葉の意味と楽譜の求めに応じて、デュナーミクを自在にコントロールできる。だからリートの表現も研ぎ澄まされる。さらなる成長が期待されている大器だが、N響との初共演を迎えるいまは声にみずみずしさがみなぎり、ひとつの聴き時といえよう。

[香原斗志／音楽評論家]

ティルマン・リヒティ(テノール)



国際的に活躍するドイツのリリック・テノール。柔らかで品のある美声、めいせき明晰な発語とニュアンス豊かなテキスト表現、なめらかなレガートと端正かつみずみずしいフレージングで、とりわけリート、宗教作品の分野で国際的な評価を確立している。マエストロ・ブロムシュテットの信頼も厚く、ザルツブルク音楽祭をはじめ各地で共演を重ねている。ジョルディ・サヴァール、トン・コープマンら古楽の巨匠たちとの共演も多い。この6月にはライブツィヒ・バッハ音楽祭でコープマンの指揮のもとバッハ《口短調ミサ曲》やカンタータのソロを歌い、絶賛された。

1975年、ドイツ、ハイルブロン近郊のシュヴァイゲルンに生まれる。トランペットから声楽に転向し、ヴェルツブルク音楽大学でシャルロッテ・レーマンの指導を受ける。2005年から8年間にわたってニュルンベルク州立歌劇場の専属歌手を務め、モーツァルトを中心にオペラのレパートリーを身につけた。一方で2010年にはシカゴ交響楽団で《ヨハネ受難曲》のエヴァンゲリストを歌って大

成功を収め、国際的に飛躍。現在へと至っている。N響との共演は2019年以來6年ぶりとなる。

[加藤浩子／音楽評論家]

スウェーデン放送合唱団(合唱)

1925年、スウェーデンのラジオ放送開始に続いて、放送局所属の合唱団として設立されたスウェーデン放送合唱団は、今年、創設100周年を迎えた。1952年に合唱界の巨匠、エリック・エリクソンが首席指揮者に就任。以来、飛躍的な成長を遂げ、スウェーデン国内外で幅広く活動を続けてきた。高い技術力と表現力を備え、伝統を守りつつ、新たなレパートリーの開拓にも取り組み、世界屈指とされる地位を確立した。近年では2007～2018年にペーター・ダイクストラ、2020年からはカスパルス・プトニンシュが首席指揮者を務める。2010年、スウェーデンの音楽を世界に広めた目覚ましい業績を讃えて、スウェーデン政府から名誉賞が授与された。

これまで、スウェーデン放送交響楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、フィルハーモニア管弦楽団など世界有数のオーケストラと多数共演。N響とは、2001年12月定期公演以来の共演となる。

プロムシュテットの長年の信頼に応える、力強さと研ぎ澄まされた美しい響きが聴き手の心を大きく動かすだろう。

[柴辻純子／音楽評論家]

Program Notes | 星野宏美

本日の2曲はいずれも旧約聖書に収められた詩篇第150篇「主を賛美せよ」を主題とする。ウルガタ訳ラテン語聖書とプロテスタント系の母国語聖書では、詩篇の番号付けが一部異なるため、わかりにくいですが、ラテン語詩篇第39篇とドイツ語第40篇は同一であり、ストラヴィンスキーの《詩篇交響曲》第2楽章とメンデルスゾーンの《讃歌》第5曲の歌詞「耐えて望みを置く」は共通である。詩篇を貫く賛美の背後に忍耐があることを心に留め、耳を傾けたい。

ストラヴィンスキー

詩篇交響曲

ボストン交響楽団の創立記念の委嘱作品として、イーゴリ・ストラヴィンスキー(1882～1971)が合唱付き交響曲を作曲したのはまったく不思議ではない。器楽と声楽による饗宴は、祝祭的な機会と久しく切り離せないものとなっていたからだ。5管編成のオーケストラに2台のピアノ、ハーブなどの特殊楽器を組み込んだのも、音色のパレットを拡張して

きた20世紀の管弦楽作品としては驚くに値しない。しかし、ヴァイオリン、ヴィオラ、クラリネットというオーケストラの核となるパートをいっさい用いなかったのは、きわめて斬新で大胆といえよう。できあがったのは、独特な響きの厚みと、室内乐的なアンサンブルの妙が合唱と絡む作品である。

歌詞に詩篇を選んだ理由として、ひとつには、ストラヴィンスキー自身の信仰の軌跡を指摘できるだろう。彼はロシア正教会の熱心な信徒だったが、20歳になる前に脱会し、1926年、40歳半ばになって信徒に復帰した。《詩篇交響曲》の出版譜(1930年)には「神の栄光のために」と銘記されている。一方、ロシア語やスラブ語ではなく、ラテン語の詩篇を歌詞とした背景には、日常語とは異なる言語、もしくは死語への彼の関心を指摘できる。1927年作曲のオペラ／オラトリオ《エディプス王》で彼がラテン語の台本を用いたのと同じ傾向である。

作品は3つの楽章からなり、それぞれ、ウルガタ訳ラテン語詩篇第38、39、150篇を歌詞とする。楽譜には各楽章のタイトルはないが、初演を担ったアンセルメにあててストラヴィンスキーは、3つの楽章をそれぞれ「プレリュード」「二重フーガ」「シンフォニック・アレグロ」と説明した。第1楽章では、規則的なリズムのきざみと変拍子が拮抗するなか、典礼での唱えのように合唱が浮かびあがる。第2楽章では、オーケストラと合唱が異なるフーガ主題を展開する。第3楽章では、かすかな囁きから全奏の叫びまで、さまざまに「賛美せよ Laudate」と発せられる。各楽章の長さが約3分、約6分、約12分と、倍増していくとともに、導入としての嘆きと悔い(第38篇)から、厳格な書法に則った確かな信仰の表現(第39篇)、そして賛美のフィナーレ(第150篇)へと内容が深まっていく。

作曲年代	1930年
初演	1930年12月13日、ブリュッセルにて、エルネスト・アンセルメ指揮、ブリュッセル・フィルハーモニー協会による。アメリカでの初演は、同年12月19日、ボストンにて、クーセヴィツキー指揮、ボストン交響楽団による
楽器編成	フルート5(ピッコロ1)、オーボエ4、イングリッシュ・ホルン1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット5、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、ハープ1、ピアノ2、弦楽(チェロ、コントラバスのみ)、合唱

メンデルスゾーン

交響曲 第2番 変口長調 作品52「讃歌」

この作品は、オーケストラの演奏会では「交響曲第2番」と呼び習わされているが、正式なタイトルは《讃歌》である。フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ(1809～1847)は、交響曲という名称を意識的に避け、出版時には「聖書の言葉に基づく交響曲カンタータ」というサブタイトルを付した。

ゲーテンベルクの活版印刷術発明400年を記念した祝祭音楽の委嘱をライプツィヒ市から受け、メンデルスゾーンは当初、オラトリオの作曲を考えた。しかし、多忙な時期でもあり、ストーリーを練る時間がとれなかったため、詩篇を中心に聖書の言葉を繋ぎ合わせて、一般的な讃歌とした。歌詞は、ルター訳ドイツ語聖書によるが、改変を含む(聖書出典は、歌詞対訳を参照)。第8曲のみ聖書ではなく、コラール(ドイツ語讃美歌)による。

作品全体は10曲からなり、交響曲(第1曲)とカンタータ(第2~10曲)を合体させた独自の形式。トロンボーン3本、ホルン4本、大オルガンを含む2管編成オーケストラは、1840年当時としては巨大であり、その色彩と迫力が存分に生かされている。聖トーマス教会で行われた初演には、合唱とオーケストラあわせて500名のプロとアマチュアが参加し、2000名もの聴衆が聴き入ったという。

第1曲は交響曲の3つの楽章に匹敵する。トロンボーン3本によって奏される冒頭モチーフは、最初のソナタ楽章の中で展開され、続くスケルツォ楽章の中間部でも用いられる。「宗教的アダージョ」と指示された緩徐楽章を経て、カンタータ開始。**第2曲**の合唱で、冒頭モチーフが詩篇第150篇「息ある者はこそって主を賛美せよ」を伴い、高らかに歌われる。以降、合唱が主軸となるが、第2曲後半ではソプラノ独唱との、**第5曲**ではソプラノ二重唱およびホルンとの掛け合いがあり、まことに美しい。**第3曲**のテノール独唱と**第4曲**の合唱も呼応している。**第9曲**は、テノールとソプラノによる抒情的な二重唱。いずれも詩篇を歌詞とし、賛美ないし感謝を歌う。

一方、第6、7曲はイザヤ書および新約聖書からの引用により、「闇から光へ」の劇的頂点を形成する。**第6曲**でテノール独唱が「夜はもうすぐ明けるのか」と幾度も問う。最後にソプラノ独唱が「夜は過ぎ去った」と告げ、**第7曲**の大合唱を導く。**第8曲**でコラール「いざやともに」が無伴奏で始まる瞬間は、息を呑むような神々しさ。後半でオーケストラが加わり、合唱がユニゾンとなるのも、この上もなく感動的である。**第10曲**の終結合唱は、圧倒的高揚感。最後に作品冒頭のモチーフが回帰し、大規模な全体を壮麗にまとめあげる。

「交響曲第2番」との呼称が定着したのは、メンデルスゾーン没後、それも20世紀に入ってからである。作曲家本人が交響曲と呼ぶことを躊躇った《讃歌》だが、サン・サーンスの《交響曲第3番「オルガン付き」》(1886)や、マーラーの《第8番「一千人の交響曲」》(1910)など、多彩かつ巨大な編成の交響曲が出現し、交響曲と宗教曲の境界も曖昧になったことにより、これらの先駆的作品として受け入れられるようになったといえよう。

作曲年代	1840年。出版に際して施した大幅な改訂は、1840年11月27日に完了
初演	1840年6月25日、ライプツィヒの聖トーマス教会にて、作曲者の指揮により、ゲヴァントハウス管弦楽団を中核に
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、オルガン、弦楽、独唱：ソプラノ・ソロ2(今回はソプラノ歌手とメゾ・ソプラノ歌手による独唱)、テノール・ソロ1、合唱

ストラヴィンスキー 詩篇交響曲 歌詞対訳

Stravinsky: *Symphony of Psalms*

詞◎ウルガタ訳ラテン語聖書詩篇 | Text: Latin Vulgate Psalms

訳◎星野宏美 | Translation: Hiromi Hoshino

※聖書協会共同訳(2018年)に依拠した

18 & 19. OCT. 2025

I

Exaudi orationem meam, Domine,
et deprecationem meam:
Auribus percipe lacrimas meas.
Ne sileas, quoniam advena ego sum
apud te,
et peregrinus, sicut omnes patres mei.
Remitte mihi,
ut refrigerer prius quam abeam,
et amplius non ero.

II

Expectans expectavi Dominum,
et intendit mihi.
Et exaudivit preces meas;
et eduxit me de lacu miseriæ,
et de luto fæcis.
Et statuit super petram pedes meos;
et direxit gressus meos.
Et immisit in os meum canticum novum,
carmen Deo nostro.
Videbunt multi, et timebunt,
et sperabunt in Domino.

I

主よ、私の祈りをお聞きください
私の叫びに耳を傾けてください
私の涙に黙していないでください
私はあなたに身を寄せる者

すべての先祖と同じ宿り人
私から目を離してください
そうすれば、私は安らぎます
私が去って、いなくなる前に

ウルガタ訳詩篇第38篇13~14節
(日本語聖書第39篇13~14節)

II

私は耐えて主に望みを置いた
すると主は私に向かって身を乗りだし
私の叫びを聞いてくださった
主は私を滅びの穴、
泥沼から引き上げて
私の足を岩の上に立たせ
歩みを確かなものとし
私の口に新しい歌を
我らの神への賛美を授けてくださった
多くの人はこれを見て畏れ
主に信頼する

ウルガタ訳詩篇第39篇2~4節
(日本語聖書第40篇1~3節)

III

Alleluja.

Laudate Dominum in sanctis Ejus:

Laudate Eum in firmamento virtutis

Ejus.

Laudate Eum in virtutibus Ejus:

Laudate Eum secundum multitudinem
magnitudinis Ejus.

Laudate Eum in sono tubæ.

Alleluja. Laudate Dominum. Laudate
Eum.

Laudate Eum in timpano et choro:

Laudate Eum in chordis et organo.

Laudate Eum in cymbalis

benesonantibus:

Laudate Eum in cymbalis jubilationis:

Omnis spiritus laudet Dominum;

Alleluja; laudate Dominum.

III

ハレルヤ

聖所で主を賛美せよ

主の力のあふれる大空で主を賛美せよ

力強い御業のゆえに主を賛美せよ

そのすぐれた偉大さにふさわしく主を賛美せよ

角笛を吹いて主を賛美せよ

ハレルヤ、主を賛美せよ、賛美せよ

タンバリンと踊りをもって主を賛美せよ

弦と笛をもって主を賛美せよ

シンバルを麗しく鳴らして主を賛美せよ

シンバルを高らかに響かせて主を賛美せよ

息あるものはこぞって主を賛美せよ

ハレルヤ、主を賛美せよ

ウルガタ訳詩篇第150篇
(日本語聖書第150篇)

メンデルスゾーン

交響曲 第2番 変口長調 作品52「讃歌」 歌詞対訳

Mendelssohn Bartholdy: Symphony No. 2 B-Flat Major Op. 52, Lobgesang (Hymn of Praise)

詞©ルター訳ドイツ語聖書およびリンカルト作コラールに基づき、メンデルスゾーン自身が改変

Text: M. Luther's German Bible and M. Rinkart's Chorale arranged by F. Mendelssohn Bartholdy

訳©星野宏美 | Translation: Hiromi Hoshino

18 & 19. OCT. 2025

A

No. 2

Alles, was Odem hat, lobe den Herrn!
Halleluja, lobe den Herrn!

Lobt den Herrn mit Saitenspiel,
lobt ihn mit eurem Liede!

Und alles Fleisch lobe seinen heiligen
Namen.
Alles, was Odem hat, lobe den Herrn!

Lobe den Herrn, meine Seele,
und was in mir ist, seinen heiligen Namen.
und vergiß es nicht
was er dir Gutes getan.

No. 3

Saget es, die ihr erlöst seid durch den
Herrn,
die er aus der Not errettet hat,
aus schwerer Trübsal, aus Schmach und
Banden,
die ihr gefangen im Dunkel waret,

第2曲

息ある者はこぞって主を賛美せよ
ハレルヤ、主を賛美せよ
(詩篇150:6)

弦をもって主を賛美せよ
歌をもって主を賛美せよ
(詩篇33:2-3を改変)

すべての肉なる者は主の聖なる御名を賛美せよ
(詩篇145:21を改変)
息ある者はこぞって主を賛美せよ

主を賛美せよ、私の魂よ
私の内なる者よ、主の聖なる御名を賛美せよ
忘れるな
主が計られた良き御業を
(詩篇103:1-2を改変)

第3曲

主に贖^{あがな}われた人々は唱えよ

主によって苦しみから救いだされた人々よ
重い苦難^{はずかし}から、辱めと縄目から救いだされた人々よ

闇に捕らわれていた人々よ

alle, die er erlöst hat aus der Not.
Saget es! Danket ihm und rühmet seine
Güte!

Er zählet unsre Tränen in der Zeit der
Not.

Er tröstet die Betrübten mit seinem
Wort.

Saget es! Danket ihm und rühmet seine
Güte.

No. 4

Sagt es, die ihr erlöst seid
von dem Herrn aus aller Trübsal.
Er zählet unsre Tränen in der Zeit der Not.

No. 5

Ich harrete des Herrn, und er neigte sich
zu mir
und hörte mein Flehn.
Wohl dem, der seine Hoffnung setzt auf
den Herrn!
Wohl dem, der seine Hoffnung setzt auf
ihn!

No. 6

Stricke des Todes hatten uns umfassen,
und Angst der Hölle hatte uns getroffen,
wir wandelten in Finsternis.

Er aber spricht: Wache auf!

主によって苦しみから救いだされたすべての者よ
唱えよ、主に感謝せよ、主の慈しみをほめたたえよ
(詩篇107:2, 8, 10, 1を改変)

主は苦しみの時に私たちの涙を数えてくださる
(詩篇56:9を改変)

主は悲しむ者を言葉をもって慰めてくださる
(詩篇107:20を改変)

唱えよ、主に感謝せよ、主の慈しみをほめたたえよ

第4曲

唱えよ、贖われた人々よ
主によってあらゆる悲嘆から贖われた人々よ
主は苦しみの時に私たちの涙を数えてくださる
(詩篇107:2; 56:9を改変)

第5曲

私は耐えて主に望みを置いた

すると主は身をかがめて私に近づき
私の願いを聞いてくださった

幸いなるかな、主を頼みとする者
(詩篇40:2, 5を改変)

第6曲

死の綱が私たちに絡みつき
陰府の脅威が私たちに迫った
私たちは闇の中をさまよった
(詩篇116:3を改変)

しかし彼は言う、目覚めよ

der du schläfst, stehe auf von den Toten,
ich will dich erleuchten.

Wir riefen in der Finsternis:
Hüter, ist die Nacht bald hin?

Der Hüter aber sprach:
Wenn der Morgen schon kommt
so wird es doch Nacht sein;
wenn ihr schon fraget,
so werdet ihr doch wieder kommen
und wieder fragen:
Hüter, ist die Nacht bald hin?

Die Nacht ist vergangen!

No. 7

Die Nacht ist vergangen,
der Tag aber herbei gekommen.
So laßt uns ablegen die Werke der
Finsternis
und anlegen die Waffen des Lichts,
und ergreifen die Waffen des Lichts!

Die Nacht ist vergangen.
Der Tag ist gekommen.
Die Nacht ist vergangen.

No. 8

Nun danket alle Gott
mit Herzen, Mund und Händen,
der sich in aller Not

眠っている者よ、死者の中から立ち上がれ
私はあなたを照らしたいのだ
(エフェソ5:14を改変)

私たちは闇の中で叫んだ
見張りの人よ、夜はもうすぐ明けるのか

見張りの人は言った
朝は来る
だが、まだ夜だ
尋ねたければ
もう一度来るがよい
そして、もう一度尋ねるがよい
見張りの人よ、夜はもうすぐ明けるのか
(イザヤ21:11-12を改変)

夜は過ぎ去った
(ローマ13:12)

第7曲

夜は過ぎ去り
昼が近づいた
だから、闇の行いを脱ぎ捨て

光の武具を身につけよう
光の武具を手にとろう

夜は過ぎ去り
昼が近づいた
夜は過ぎ去った
(ローマ13:12を改変)

第8曲

いざやともに、神に感謝せよ
心と口と行いをもって、神に感謝せよ
主はどんな苦しみの時も

will gnädig zu uns wenden,
der so viel Gutes tut,
von Kindesbeinen an
uns hielt in seiner Hut,
und allen wohlgetan.

Lob, Ehr' und Preis sei Gott,
dem Vater und dem Sohne
und seinem heil'gen Geist
im höchsten Himmelsthron.
Lob dem dreiein'gen Gott,
der Nacht und Dunkel schied
von Licht und Morgenrot,
ihm danket unser Lied.

No. 9

Drum sing ich mit meinem Liede
ewig dein Lob, du treuer Gott!

und danke dir für alles Gute,
das du an mir getan.

Und wandl' ich in Nacht und tiefem
Dunkel,
und die Feinde umher stellen mir nach,

so rufe ich an den Namen des Herrn,
und er errettet mich nach seiner Güte.

No. 10

Ihr Völker! bringet her dem Herrn
Ehre und Macht!
Ihr Könige! bringet her dem Herrn

私たちを慈しみ
良き計らいをなされる
幼い時より
私たちを守り助け
すべてのものに良き御業を示された

賛美、栄光、誉れが神にあるように
父と子と
聖霊なる神に
いと高き天の玉座におられる神に
賛美が三位一体の神にあるように
夜と闇を
光と曙から分けられた神に
主に感謝せよ、私たちの歌によって
(リンカルト作コラル第1、3節を改変)

第9曲

それだから私は、私の歌を歌い
永遠にあなたを賛美する、主よ、まことの神よ

私はあなたに感謝する
あなたが私に計られたすべての良き御業に

私が夜、深い暗闇の中をさまよい

敵たちが私を取り囲み、私を追い回しても

その時、私は主の御名を呼ぶ
主は慈しみをもって私を救いだしてくださる
(詩篇28:7; 31:6; 103:2; イザヤ59:9;
詩篇38:13; 116:4; 7:2; 51:3などを自由に改変)

第10曲

もろもろの民よ、主に帰せよ
栄光と力を
もろもろの王よ、主に帰せよ

Ehre und Macht!
Der Himmel bringe her dem Herrn
Ehre und Macht!
Die Erde bringe her dem Herrn
Ehre und Macht!

Alles danke dem Herrn!
Danket dem Herrn und rühmt seinen
Namen
und preiset seine Herrlichkeit!
Danket dem Herrn und preiset ihn!

Alles, was Odem hat, lobe den Herrn,
Halleluja, lobe den Herrn!

栄光と力を
天よ、主に帰せよ
栄光と力を
地よ、主に帰せよ
栄光と力を
(詩篇96:7, 10-11; 29:1; 歴代誌上16:28, 31を改変)

こそって主に感謝せよ
主に感謝せよ、主の名をほめたたえよ

主の栄光をたたえよ
主に感謝せよ、主をたたえよ
(詩篇105:1; 歴代誌上16:8を改変)

息ある者はこそって主を賛美せよ
ハレルヤ、主を賛美せよ
(詩篇150:6)

爽やかな天才が神にささげる讃歌

フェリックス・ メンデルスゾーン・ バルトルディ

A

2025
OCTOBER
[第2046回]

Felix Mendelssohn Bartholdy (1809–1847)

メンデルスゾーンは神童として幼い頃より才能を開花させていた天才タイプだ。祖父は哲学者、父は銀行家という裕福で教養のある家柄だが、偉ぶったところはなく、品格があって勤勉。同時代の音楽を演奏するのが当たり前だった時代にあって、古い曲を掘り起こし、当時は忘れ去られていたバッハ作品にふたたび光を当てるなど、音楽界に奉仕した。そんな好青年メンデルスゾーンによる神への讃歌は、まっすぐな信仰心にあふれ、胸を打つ。

詩篇からのインスピレーション

詩篇とは、旧約聖書に集録された宗教的な詩のこと。

ストラヴィンスキー《詩篇交響曲》とメンデルスゾーン《讃歌》の歌詞は、ラテン語とドイツ語という言葉の違いはあれどどちらも詩篇第150篇を使用している。神への賛美を合唱が力強く歌う、2つの交響曲のエネルギーに圧倒されるはずだ。



清涼感あふれる立ち姿!
指揮しながら歌う好青年、
メンデルスゾーン
イラストレーション: ©IKE

B

第2045回

サントリーホール

10/9 木 7:00pm

10/10 金 7:00pm

指揮	ヘルベルト・ブロムシュテット プロフィールはp. 10
フルート	セバスティアン・ジャコー
コンサートマスター	郷古 廉
カバー・コンダクター	エヴァ・オリカイン◆

◆エヴァ・オリカイン:2020年よりアイスランド交響楽団の首席指揮者兼芸術監督。これまでにノルウェー室内管弦楽団の首席指揮者を務めている。昨シーズンはフランス国立管弦楽団、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団などにデビュー。今シーズンは、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ケルンWDR交響楽団、ベルリン放送交響楽団などへのデビューを予定している。シベリウス・アカデミーでレイフ・セーゲルスタムとヨルマ・パヌラに師事し、21歳でヨルマ・パヌラ国際指揮者コンクールに優勝。N響とは先日のNHK音楽祭2025および大阪公演で初共演したばかり。

グリーグ

組曲「ホルベアの時代から」作品40
[21']

- I 前奏曲
- II サラバンド
- III ガヴオットー・ミュゼット
- IV アリア
- V リゴードン

ニルセン

フルート協奏曲 [19']

- I アレグロ・モデラート
- II アレグレット、ウン・ポーコ

— 休憩(20分) —

シベリウス

交響曲 第5番 変ホ長調 作品82 [30']

- I テンポ・モルト・モデラート—
アレグロ・モデラート—プレスト
- II アンダンテ・モツ、クワジ・アレグレット
- III アレグロ・モルト—ミステリオーソ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ただたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksso.or.jp/enquete.html>

セバスティアン・ジャコー（フルート）



1987年スイスのジュネーヴに生まれ、ジュネーヴ高等音楽院でジャック・ズーンに師事。2013年神戸国際フルートコンクール、2014年カール・ニルセン国際フルートコンクール、2015年ARDミュンヘン国際音楽コンクールのすべてで優勝を飾り、現代屈指のフルート奏者としての評価を確立した。

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の首席奏者を務めたほか、クラウドディオ・アバドに招かれてマーラー室内管弦楽団やモーツァルト管弦楽団でも演奏。日本では、2008年から参加しているサイトウ・キネン・オーケストラの首席奏者としてお馴染みの存在となっている。また、ソリストとしてバイエルン放送交響楽団やミュンヘン室内管弦楽団をはじめ、多くの楽団と共演を重ね、幅広いレパートリーを持つ名手としてリサイタルや室内楽でも活躍。プレーメン芸術大学で教鞭をとるなど、教育面にも力を注いでいる。

N響とは今回が初の共演。優勝したコンクールゆかりのニルセンの協奏曲における生气と躍動感に満ちたソロへの期待は大きい。

[柴田克彦／音楽評論家]

Program Notes | 小林ひかり

ノルウェーのグリーグ、デンマークのニルセン、フィンランドのシベリウスという、ブROMシュテットのルーツである北欧の作曲家の作品によるプログラム。いずれも作曲家たちがすでに数々の傑作を世に送り出し、名実ともに充実していた時期に、さらに新たな道を探求して書かれた作品である。彼らをこよなく敬愛するブROMシュテットによる演奏は、きつと想像を超える感動を与えてくれるだろう。

グリーグ

組曲「ホルベアの時代から」作品40

ルズヴィ・ホルベア（1684～1754）は啓蒙時代の作家で、エドヴァルト・グリーグ（1843～1907）と同じノルウェー西部のベルゲンの出身である。ホルベアが生きた時代はデンマークとノルウェーが国王を同じくする同君連合の関係にあり、ホルベアはおもにコペンハーゲンで活動したため、両国の文学の祖として称えられている。《ホルベアの時代から》は、この作家の生誕200年を記念して、もともとはピアノ独奏のために書かれ、ノルウェー人ピアノ

ニスト、エリカ・ニッセンに献呈された。副題に「古い様式による組曲」とある。クーブラン、ラモー、J. S. バッハの作品にあるようなフランス舞曲など、ホルベアと同時代のバロック音楽の様式を借りて、グリーグはロマン主義の語法を用いて優雅でユニークな組曲を書いた。その作曲が行われたのは1884年の夏、ハルダンゲル地方のロフトフース。山々とフィヨルドに囲まれたその村にグリーグは以前住んだことがあり、その後も夏をここで過ごすことがあった。なお、弦楽合奏版は翌1885年に完成した。その組曲は次の5曲から成る。

第1曲 前奏曲 湧き出るような喜びと活気に満ちた音楽。原曲のピアノ独奏版では分散和音だったところを、弦楽合奏版ではリズムカルに刻まれる和音に変えたり、メロディを加えて響きをより豊かにしたりして、弦楽合奏にふさわしい書法になっている。

第2曲 サラバンド 2拍目にやや重みのある、ゆったりとした3拍子の舞曲。穏やかに始まるが、幾分動きが増す中間部では、チェロの独奏が登場し、続くトゥッティ(総奏)で劇的に高揚していく。

第3曲 ガヴォット—ミュゼット 17～18世紀フランスの宮廷舞踊風に優雅に始まる。ミュゼットの部分では、ミュゼットらしくバグパイプのような持続音を伴う。

第4曲 アリア この組曲中で唯一、短調を主調とする。発想記号に「宗教的に」とある。グリーグの叙情性が大いに発揮されている曲。

第5曲 リゴードン 急速なテンポで生き生きとした2拍子の舞曲。ヴァイオリン独奏とヴィオラ独奏による二重奏を他が伴奏する形で始まる。物悲しい気分の中間部を経て、快活に駆け抜けるように曲は閉じられる。

作曲年代	[原曲(ピアノ独奏版)]1884年 [弦楽合奏版]1885年
初演	[原曲]1884年12月7日、ベルゲン、作曲者によるピアノ [弦楽合奏版]1885年3月15日、ベルゲン、作曲者による指揮
楽器編成	弦楽

ニルセン

フルート協奏曲

カール・ニルセン(1865～1931)の《フルート協奏曲》は、彼が残した6つの交響曲よりもあとに書かれた後期の傑作である。その作曲の数年前、ニルセンは深い信頼を寄せるコペンハーゲン管楽五重奏団のために《管楽五重奏曲》(1922年完成)を書いた。そして彼はさらに、五重奏団のひとりひとりのために協奏曲を作曲することを約束したと言われている。まずクラリネットのために書こうと考えたが、フルートのためのアイデアの方が先行し、1926年の夏から秋にかけての短い期間に《フルート協奏曲》が作曲され、最初に完成した。これを献呈されたのはホルゲル・ギルベルト・イエスペルセン。彼が五重奏団のメンバーになるのは実は1927年頃だが、彼を念頭に置いて作曲され、初演では彼がソ

リストを務めた。ラヴェルやオネゲルも出席したというパリでのそのコンサートは、すべてニルセンの作品によるプログラムで、最新作《フルート協奏曲》の他に、《交響曲第5番》、《ヴァイオリン協奏曲》、劇付随音楽《アラジン》からの5曲なども演奏された。コンサートは好評だったものの、《フルート協奏曲》については賛否両論であった。ニルセンはより大きな終結部を新しく作曲し、その改訂版の初演を翌年1月にコペンハーゲンで行った。なお、1928年には《クラリネット協奏曲》を完成させるが、ニルセンの体調悪化のため、これが最後の大作となってしまった。

《フルート協奏曲》は伝統的な協奏曲とは異なり、2楽章から成る。またトランペットが登場せず、室内楽的で、各楽器の個性や、これらとフルート独奏との掛け合いが際立つのも特徴である。

第1楽章 冒頭は自由で幻想的。不安定な調性の中、モチーフが提示されていく。しばらくして落ち着き、オーケストラによって奏される主題はへ長調で優しく歌うようである。独奏フルートはオーケストラや各楽器とのやり取りを経てカデンツァへ移行し、最後は開始と対照的に、変ト長調できわめて静かに終わる。

第2楽章 静けさを打ち破るように力強く始まるが、やがて静まり、子どものように無邪気な（ニルセンは演奏会の解説でこのように表現した）主題がフルート独奏によって奏される。これとアダージョで登場する嘆きのメロディが展開されていく。後半は行進曲のテンポになり、最後はバス・トロンボーンによるグリッサンド奏法を取り入れるなど、ユーモアをまじえながら軽快に終結する。

作曲年代	1926年。1927年改訂
初演	1926年10月21日、パリ、コンサートホール・メゾン・ガヴォー（現サル・ガヴォー）にて、ホルゲル・ギルベルト・イエスベルセン独奏、エミール・テルマーニ（ニルセンの娘婿）指揮、パリ音楽院管弦楽団 [改訂版] 1927年1月25日、コペンハーゲン、音楽協会にて、ホルゲル・ギルベルト・イエスベルセン独奏、作曲者による指揮
楽器編成	オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ、弦楽、フルート・ソロ

シベリウス

交響曲 第5番 変ホ長調 作品82

ジャン・シベリウス（1865～1957）の《交響曲第5番》は、彼の50歳の祝賀コンサートで発表すべく作曲された。その着想は1914年で、未曾有の大惨事をもたらした第1次世界大戦が勃発した年である。シベリウスは国外での公演や楽譜出版がままならなくなるなど、収入減少に見舞われていた。1915年の春、彼はヘルシンキの北に位置するヤルヴェンパーの自宅（妻の名にちなんでアイノラと名付けられた）周辺を散歩中のある体験を日記

に綴^{つづ}っている。「今日、11時10分前に16羽の白鳥を見た。人生最高の体験のひとつだ。(中略)白鳥たちは私の上をしばらく旋回し、煌^{きら}めく銀のリボンのように太陽の囿^{もや}の中へと消えていった。鳴き声は鶴のように木管楽器風、しかしトレモロはない。自然の神秘と人生の不安。第5交響曲フィナーレの主題だ……」(1915年4月21日)。さらに、親友でパトロン^{さんか}のアクセル・カルペランからシベリウスへの手紙には「比類ない白鳥讃歌」という言葉があることから(1916年12月15日)、この体験と本作終楽章の主題が深い関わりを持つことは確かだとされている。

シベリウスの50歳の誕生日に行われた初演は大成功だったが、彼はそれに満足せず、大幅な修正を行う。目立った変更点を挙げれば、4楽章構成だった初稿の最初の2つの楽章をひとつにまとめた。また、第1楽章冒頭にホルンのメロディを加えた。それから、終楽章最後の6つの決然たる和音の間を無音の時間にした。一般に広く知られているのは最終稿であるが、このように《第5番》の大きな特徴であるところのいくつかは初稿には存在しなかった。初稿から最終稿完成までの間には、ロシア革命が起り、フィンランドはロシアから独立し、それに伴う内戦のさなか、アイノラも赤衛隊による家宅捜索を受けた。さらに親友カルペランの死。《交響曲第5番》は、作曲家がさまざまな困難を経て完成させた作品なのである。

喉の腫瘍を患っていた頃、死への恐怖につきまといながら作曲した《交響曲第4番》(1911年完成)の悲愴^{ひそう}感とは打って変わり、《第5番》は生の息吹と喜びをしみじみと感じさせる。

第1楽章 冒頭のホルンの呼びかけと木管楽器の応答は、澄み渡った光景が目に浮かぶかのよう。ここに本作品の多くの音楽素材が含まれている。第1楽章後半はスケルツォとなり、急速なテンポで活気を増していく。

第2楽章 まず管楽器、続いて弦楽器のピチカート^{ピチカート}のあとに、これと和やかに対話をするようにフルートの主題が現れる。変奏曲形式による3拍子の緩徐楽章である。

第3楽章 弦楽器主体の無窮動風の急速な部分に続いて、「白鳥の主題」とも呼ばれる、揺らめくような3拍子系の印象深い主題が登場する。ホルンによって奏されるこの主題に、木管楽器とチェロの伸びやかに歌うメロディが重なる。最後はトランペットが中心となってこの主題を奏し、壮大なクライマックスを築き上げていく。

作曲年代	[初稿]1914～1915年 [第2稿]1916年 [最終稿]1917～1919年
初演	[初稿]1915年12月8日、ヘルシンキ大学講堂にて、作曲者による指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団 [第2稿]1916年12月8日、トゥルク、作曲者による指揮、トゥルク音楽協会(現トゥルク・フィルハーモニー管弦楽団) [最終稿]1919年11月24日、ヘルシンキ大学講堂にて、作曲者による指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽

グリーグはこどもの頃から音楽の才能を発揮し、15歳でライプツヒに留学。そこで学んだロマン派の作曲語法とふるさとのノルウェー民謡とを合わせた、叙情豊かな音楽を作った。その独自性は、流れ落ちる滝のような出だしの《ピアノ協奏曲》や、親しみやすい旋律とともに北欧の情景が広がる《ペール・ギュント》などの作品に結実している。そんなグリーグの作風に、さらにバロック風の「味つけ」をした作品が本日の《ホルベアの時代から》だ。

北欧の妖精が舞い踊るような音楽

エドヴァルト・グリーグ

Edvard Grieg (1843-1907)

B

2025

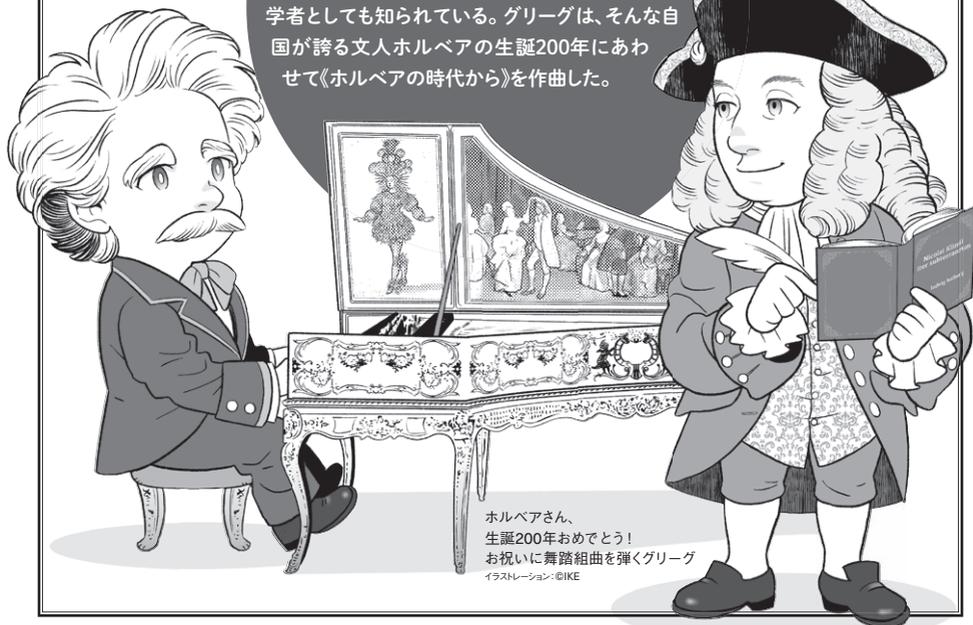
OCTOBER

[第2045回]



北欧文学の祖、ホルベア

ルズヴィ・ホルベア (1684~1754) は北欧文学の祖とも呼ばれるデンマーク・ノルウェーの劇作家。風刺喜劇や風刺小説で北欧文学を世界に広めた。法律、哲学、ラテン語、歴史、地理などを講じた万能学者としても知られている。グリーグは、そんな自国が誇る文人ホルベアの生誕200年にあわせて《ホルベアの時代から》を作曲した。



ホルベアさん、
生誕200年おめでとう！
お祝いに舞踏組曲を弾くグリーグ
イラストレーション：©IKE

C

第2047回

NHKホール

10/24 金 7:00pm

10/25 土 2:00pm

指揮	ヘルベルト・ブロムシュテット プロフィールはp. 10
ピアノ	レイフ・オヴェ・アンズネス
コンサートマスター	川崎洋介
カバーコンダクター	下野竜也◆

◆下野竜也：1969年鹿児島生まれ。鹿児島大学教育学部音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部附属指揮教室で学ぶ。2000年東京国際音楽コンクール（指揮）優勝と齋藤秀雄賞受賞、2001年プザンソン国際指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴び、以降国際的な活動を展開。これまでに読売日本交響楽団首席客演指揮者、京都市交響楽団常任首席客演指揮者などを歴任し、現在、札幌交響楽団首席客演指揮者、広島ウインドオーケストラ音楽監督、広島交響楽団桂冠指揮者を務める。N響とは2005年の初登場以来数多くの共演を重ね、2023年10月正指揮者に就任。

ブラームス ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83 [47']

- I アレグロ・ノン・トロッポ
- II アレグロ・アパッショナート
- III アンダンテ
- IV アレグレット・グラチオーソ

— 休憩 (20分) —

ブラームス 交響曲 第3番 へ長調 作品90 [38']

- I アレグロ・コン・プリオ
- II アンダンテ
- III ポーコ・アレグレット
- IV アレグロ

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

レイフ・オヴェ・アンズネス(ピアノ)



1970年、ノルウェーのカルメイ生まれ。ベルゲン音楽院でチェコ人のイルジー・フリンカに師事。またベルギー人のジャック・ドゥ・ティエーリからも教えを受けた。アーティストック・パートナーだったマーラー室内管弦楽団とは、「ベートーヴェンへの旅」や「モーツァルト・モメンタム 1785/86」というクリエイティヴな企画を行う。室内楽にも積極的で、ローゼンダール室内楽音楽祭を創設し、リソル室内楽音楽祭の共同芸術監督やオーハイ音楽祭音楽監督も務めた。50以上の録音をリリースしており、グラミー賞に11回ノミネート。ベルゲン大学、オスロ大学、ジュリアード音楽院から名誉博士号を授与されたほか、ノルウェー王国聖オーラヴ勲章コマンドーを受章している。現在は妻、3人の子どもとベルゲンに暮らす。

ブロムシュテット指揮、NHK交響楽団とは、2011年にラフマニノフの《ピアノ協奏曲第3番》で共演して高く評価された。2023年にも共演予定だったがブロムシュテットの来日中止により叶わず、今回はブラームスで待望の再共演となる。

[高坂はる香／音楽ライター]

Program Notes | 池上健一郎

今回はオール・ブラームス・プログラム、ブラームス一色である。もちろん、「一色」というのは言葉のあやでしかない。《ピアノ協奏曲第2番》と《交響曲第3番》。ふたつの大作に耳を傾けてみよう。オーケストレーションは保守的と言われがちなブラームスだが、どちらも決してべったりと塗りつぶされた単色の世界ではないと、すぐに気がつくはずだ。派手さは確かにないかもしれない。だが、明暗や濃淡の繊細な変化に満ちたその音楽には、この作曲家にしか出せない独特の色調がある。

無数のグラデーションを持つ「ブラームス色」——じつに味わい深い。

ブラームス

ピアノ協奏曲 第2番 変口長調 作品83

ヨハネス・ブラームス(1833~1897)にとって、ピアノ協奏曲は、同じく大規模なオーケストラを扱うという意味で、交響曲と切っても切り離せないジャンルであった。《ピアノ協奏曲第1番》(1859)の場合、もともと2台ピアノのためのソナタとして構想し、途中で交響曲へと改作しようとしたもののうまくいかず、結局はピアノのための協奏曲という形態に落ち着いた。それから22年の年月を経て作曲された《ピアノ協奏曲第2番》でも、ブラームス

は明らかに交響曲をモデルとした4楽章構成を採用し、協奏曲には通常含まれないスケルツォを第2楽章に置いている。その点、本人も自覚していたようで、よき理解者だったピアニストで作曲家のエリーザベト・フォン・ヘルツォーゲンベルクに宛てて、「とてもごんまりとして繊細なスケルツォ付きの、とても小さなピアノ協奏曲を書きました」と伝えている。ただし、これはブラームスお得意の皮肉めいた冗談で、実際には大規模なスケルツォを伴う、総演奏時間が50分近くにもおよぶ大作である。

本作の最初のスケッチは1878年の春。それから3年後の1881年の夏、保養のために滞在していたウィーン近郊のプレスバウムで本格的に作曲に取り組み、完成にまで至っている。初演は同年の11月9日、ブラームス本人のピアノ独奏によりブダペストで行われた。前作の《ピアノ協奏曲第1番》が評価を得るまでに時間を要したのとは対照的に、本作はすぐさま好意的に受け入れられ、翌年1月までに各地で19回も再演されることとなった。

第1楽章 アレグロ・ノン・トロppo。ホルンの呼びかけにピアノがやさしく応じるかたちで静かに始まると、早々にピアノの独奏が披露される。英雄的な壮大さと穏やかな叙情性がまじりあう長大な楽章の中で、ピアノはヴィルトゥオーソ的な技巧を存分に発揮しながらオーケストラと互角に渡り合う。

第2楽章 アレグロ・アパッシオナート。ブラームスが冗談めかして「とてもごんまりとして繊細なスケルツォ」と呼んだ楽章。その実は、激しい情熱を秘め、中盤には荒々しさや神々しさすらも感じさせるスケールの大きな音楽である。

第3楽章 アンダンテ。冒頭、チェロが心に染み入る旋律を情感たっぷりに歌わせる。それを引き継いだピアノが音楽に情熱を注ぎ込み、ドラマティックな響きへと発展していくも、再び甘く美しい夢の世界へと沈み込んでいく。

第4楽章 アレグレット・グラチオーソーウン・ポーコ・ピウ・プレスト。跳ねるようなリズムの主題が何度も戻ってくる、軽妙洒脱なロンド楽章。終盤はピアノ独奏とともにテンポアップし、華やかさを増す。

作曲年代	1881年
初演	1881年11月9日、ブダペスト、アレクサンダー・エルケル指揮、作曲者による独奏
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽、ピアノ・ソロ

ブラームス

交響曲 第3番 へ長調 作品90

すでに音楽界のスターになって久しかったブラームスは、秋から翌年の初夏まで続くシーズン中は演奏会の予定が目白押しだったため、新作の創作に集中できるのは、い

きおい夏の休暇期間に限られていた。《交響曲第3番》も、ドイツ各地での演奏会をひととおり終えたあとに訪れたライン川沿いの保養地、ウィースバーデンで1883年に着手された。作曲は順調に進んだようで、滞在中の同年9月末には全曲の完成を見ている。

1876年に《交響曲第1番》、1877年に《交響曲第2番》と立て続けに完成させたあと、ほかのジャンルに注力していたブラームスが久しぶりに手がけたこの新作交響曲に対して、周囲からは早々に称賛の声が上がった。かねてから親交のあったドヴォルザークは、完成したばかりの第1楽章と第4楽章をブラームス本人のピアノ演奏で聴いて、「前の2つの交響曲を凌駕する」との印象を抱いたという。また、音楽評論家のエドゥアルト・ハンスリックも、1883年12月2日にウィーンで行われた全曲初演を聴いて、ベートーヴェンの「健康で生氣溢れる」性格と、シューマン、メンデルスゾーンを思わせる「ロマン派的薄明」を兼ね備えた「芸術的に完璧な作品」と、手放しで褒めたたえている。ドイツ音楽の伝統の継承者として、かねてからブラームスを高く評価していたハンスリックらしい言い回しである。

本作は、2管編成のオーケストラによる4楽章構成という伝統的なかたちを取っているものの、中間楽章がともに緩徐楽章の性格を持っているうえに、すべての楽章が静かに終結するなど、独自のコンセプトが光る交響曲である。

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ。管楽器群がふたつの和音を力強く吹き鳴らすと、壮大なドラマの幕開けを予感させる大きな身振りの主題が現れる。ただし、この楽章の中ではそうした勇ましさは長続きせず、しだいに穏やかな曲調へと流れていく。

第2楽章 アンダンテ。慈愛に満ちた緩徐楽章。クラリネットとファゴットが、この楽章の基調となる素朴な旋律を奏で、そこにほかの楽器が加わっていくことで少しずつ響きが豊かさを増していく。

第3楽章 ポーコ・アレグレット。冒頭で、チェロが憂いを帯びた甘美な旋律を歌う。この印象深い旋律は楽章を通じてさまざまな楽器に受け渡され、そのたびにその表情を微妙に変えていく。

第4楽章 アレグロ。低く、くぐもった響きのユニゾン主題とともに、ためらいがちに始まるが、ティンパニの鋭い打撃音とともに前へと進みだす。終楽章にふさわしく、音楽は何度も大きな盛り上がりを見せるも、終盤に至ると動きは目立って落ち着き、最後は安らかな響きに包まれて静かに閉じられる。

作曲年代	1883年
初演	1883年12月2日、ウィーン、ハンス・リヒター指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽

豊穣で物憂げ、秋が似合う男

ヨハネス・ブラームス

Johannes Brahms (1833-1897)

C
2025
OCTOBER
[第2047回]

バッハ、ベートーヴェンと並び、ドイツ音楽の「三大B」と称されるブラームス。職人かたぎで慎重な彼が、プレッシャーのなかで《交響曲第1番》を生み出すまでに20年以上もの時間をかけたというのは、あまりにも有名な話。しかし本日の《交響曲第3番》が作られた頃には、すでに名声を得て、余裕の作曲姿勢だ。雄大にはじまり穏やかに終わる構成や、長調と短調との間をゆるる旋律は、晩秋のようなしみじみとした味わいを持つ。

ピアニスト・ブラームス

作曲家のイメージが強いブラームスだが、ピアニストとしての腕前も相当なものだった。24歳で勤務したデトモルト宮廷は、彼のピアニストとしての能力が高く評価されて話が決まったという。華やかな超絶技巧とは異なり、演奏しながら大声で歌うような、自分自身を深く作品と演奏に没入させるスタイルだったと伝わっている。

イチヨウの葉がはらり。
大自然の恵みと哀愁を感じるブラームス
イラストレーション ©IKE

2025年11月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

名誉音楽監督シャルル・デュトワが8年ぶりに定期公演に登場する。昨年のNHK音楽祭では、得意の《春の祭典》を指揮し、以前と変わらない鮮やかなバトンテクニックで聴衆を魅了した。今回の2種類のプログラムも、デュトワが好んで取り上げてきた曲ばかりである。N響に一時代を築いた名匠の円熟ぶりを、じっくり味わっていただきたい。

宇宙の神秘と神の遍在

[Aプログラム]の《組曲「惑星」》は、占星術に着想を得た作品。〈火星〉や〈木星〉はしばしば単独でも演奏されるが、ホルストが自身の名前の音型を入れ込んだ〈天王星〉や、女声合唱のフェイドアウトで終わる〈海王星〉など、他の曲もそれぞれ工夫に富んでいて魅力的だ。中でも作曲家自身のお気に入りだった〈土星〉は「老いをもたらす者」の別名を持つだけあり、聴き手は人生経験を積むほどにしみじみとした感慨を覚えるのではないかと。7曲からなる組曲は緩急のバランスが取れていて、惑星の絶妙な配列を見るかのようだ。

前半は《神の現存の3つの小典礼》。敬虔なカトリックであったメシアンにとって、音楽は神を讃えるための手段だった。彼が書いたのは儀式のためではなく、あくまで個人的な

宗教観に基づく祈りの音楽である。典礼の様式を逸脱し、オンド・マルトノが官能的に響くこの曲は当初、神への冒瀆^{ぼうとく}ではないかと強い批判を浴びた。だが今日では代表作のひとつとして、不動の評価を得ている。神の遍在を歌ったメシアンの音楽と、宇宙の神秘を結びつけたデュトワのアイデアは見事という他ない。

職人が振る職人の音楽

[Cプログラム]は生誕150年のラヴェル。緻密で洗練された作風を持つ彼は「スイスの時計職人」と評されたが、これはスイス生まれのデュトワにも共通するのではなからうか。リハーサルでは、正確な音程や微妙な音色をとことん追求する。細部までネジを締め続けることで「理想の音楽」が現れるのだ。職人デュトワにとって、ラヴェルは最も腕の振るい^が甲斐のある素材と言えるかもしれない。

今回のプログラムには、古典の信奉者であったラヴェルの美意識が詰まっている。昔の宮廷舞曲をイメージした《亡き王女のためのパヴァーヌ》では、柔らかなホルンのソロが深い余韻を残す。《クーブランの墓》はフランスの大作曲家へのオマージュで、表向きのシンブルさとは裏腹に、凝った和声が特徴的だ。《ダフニスとクロエ》は、古代ギリシャを舞台

に繰り広げられる恋愛劇。聴き映えのするこの曲は、指揮者たちの人気の的だが、合唱の入る全曲版を演奏できる機会は決して多くない。ラヴェルの記念イヤーに、スペシャリストの指揮でお届けできるのは嬉しいことである。音楽監督時代のデュトワは、フランス音楽のエッセンスをN響に伝えることを大きな目標にしていた。その成果が今こそ生かされるだろう。

**名門モンテリオール響
音楽監督の直球勝負**

[Bプログラム]の指揮はラファエル・パヤーレ。5年前の共演から間もなく、名門モンテリオール交響楽団の音楽監督に抜擢され、瞬く間に売れっ子のひとりとなった。大編成のオーケストラ曲に、小細工を弄せず直球勝負で挑

むのが、この人の持ち味であろう。R. シュトラウス《英雄の生涯》は最近、モンテリオール響と録音したばかりで、最も自信のあるレパートリーのひとつ。ホルンが活躍する曲を選んだところに、元ホルン奏者の経歴が表れている。

《ピアノ協奏曲第25番》を弾くエマニュエル・アックスは、パヤーレとたびたび共演する間柄。今年76歳の大御所の生演奏を、日本で聴けるチャンスは、最近では滅多にない。奥様が日本人という縁もあり、今回の来日と23年ぶりのN響定期出演をとっても楽しみにされているようだ。N響とのモーツァルトは、1982年の《第20番》以来、実に43年ぶりである。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 11/8 土
6:00pm
11/9 日
2:00pm
NHKホール

メシアン／神の現存の3つの小典礼＊
ホルスト／組曲「惑星」作品32
指揮：シャルル・デュトワ
ピアノ：小菅 優＊
オンド・マルトノ：大矢素子＊
女声合唱：東京オペラシンガーズ



B 11/20 木
7:00pm
11/21 金
7:00pm
サントリーホール

シューマン／「マンフレッド」序曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第25番 八長調 K. 503
R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40
指揮：ラファエル・パヤーレ
ピアノ：エマニュエル・アックス



C 11/14 金
7:00pm
11/15 土
2:00pm
NHKホール

ラヴェル生誕150年
ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ
ラヴェル／組曲「クープランの墓」
ラヴェル／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」(全曲)＊
指揮：シャルル・デュトワ
合唱：二期会合唱団＊



チケットのご案内(定期公演 2025年9月～2026年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2025年7月6日[日](定期会員先行) / 2025年7月13日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2025年10月14日[火](定期会員先行) / 2025年10月17日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2026年2月10日[火](定期会員先行) / 2026年2月14日[土](一般)

料金(税込)

年間会員券 (9回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
Cプログラム	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)

シーズン会員券 (3回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
Cプログラム	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2025年7月23日[水](定期会員先行) / 2025年7月27日[日](一般)
	12・1・2月	2025年10月22日[水](定期会員先行) / 2025年10月26日[日](一般)
	4・5・6月	2026年2月19日[木](定期会員先行) / 2026年2月23日[月・祝](一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み	WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp	
	N響ガイド TEL 0570-02-9502 営業時間：10:00am～5:00pm 定休日：土・日・祝日	<ul style="list-style-type: none"> ●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業 ●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2025-26定期公演プログラム

2025 10	A	第2046回	マエストロが祈りを込めて贈る 2つの合唱付き交響曲 ストラヴィンスキー／詩篇交響曲(日本語幕付き) メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讚歌」* (日本語幕付き) 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー* メゾ・ソプラノ:マリー・ヘンリエッタ・ラインホルト* テノール:ティルマン・リヒティ* 合唱:スウェーデン放送合唱団 カバールコンダクター:ミシエル・タバシュニク	一般 S ¥15,000 A ¥12,500 B ¥10,000 C ¥8,000 D ¥6,500 E ¥4,500	ユースチケット S ¥7,000 A ¥6,000 B ¥5,000 C ¥4,000 D ¥3,000 E ¥2,000
		10/18(土) 6:00pm 10/19(日) 2:00pm	NHKホール	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,500 D ¥2,750
	B	第2045回	ブロムシュテットが惹き込む気品に満ちた北欧の傑作たち グリーグ／組曲「ホルベアの時代から」作品40 ニルゼン／フルート協奏曲 シベリウス／交響曲 第5番 変ホ長調 作品82 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット フルート:セバスティアン・ジャコー カバールコンダクター:エヴァ・オリカイネン	一般 S ¥13,000 A ¥11,000 B ¥8,500 C ¥7,000 D ¥5,600 E ¥3,500	ユースチケット S ¥6,500 A ¥5,200 B ¥4,000 C ¥3,500 D ¥2,000 E ¥1,700
2025 11	A	第2047回	巨匠と名ピアニストの飽くなき探究心が拓く新たなブラームスの地平 ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83 ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ピアノ:レイフ・オヴェ・アンズネス カバールコンダクター:下野竜也	一般 S ¥13,000 A ¥11,000 B ¥8,500 C ¥7,000 D ¥5,600 E ¥3,500	ユースチケット S ¥6,500 A ¥5,200 B ¥4,000 C ¥3,500 D ¥2,000 E ¥1,700
		10/24(金) 7:00pm 10/25(土) 2:00pm	NHKホール	一般 S ¥13,000 A ¥11,000 B ¥8,500 C ¥7,000 D ¥5,600 E ¥3,500	ユースチケット S ¥6,500 A ¥5,200 B ¥4,000 C ¥3,500 D ¥2,000 E ¥1,700
	B	第2048回	デュトワ、十八番のメシアンとホルストを携え 8年振りに定期公演に登場 メシアン／神の現存の3つの小典礼* ホルスト／組曲「惑星」作品32 指揮:シャルル・デュトワ ピアノ:小菅 優* オンド・マルトノ:大矢素子* 女声合唱:東京オペラシンガーズ	一般 S ¥13,000 A ¥11,000 B ¥8,500 C ¥7,000 D ¥5,600 E ¥3,500	ユースチケット S ¥6,500 A ¥5,200 B ¥4,000 C ¥3,500 D ¥2,000 E ¥1,700
2025 12	A	第2050回	大きく羽ばたく俊英が得意のドイツ・プログラムで再登場 シューマン／「マンフレッド」序曲 モーツァルト／ピアノ協奏曲 第25番 へ長調 K. 503 R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40 指揮:ラファエル・バヤーレ ピアノ:エマニュエル・アックス	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		11/20(木) 7:00pm 11/21(金) 7:00pm	サントリーホール	一般 S ¥13,000 A ¥11,000 B ¥8,500 C ¥7,000 D ¥5,600 E ¥3,500	ユースチケット S ¥6,500 A ¥5,200 B ¥4,000 C ¥3,500 D ¥2,000 E ¥1,700
	C	第2049回	当世随一の解釈者のタクトでラヴェルを味わい尽くす ラヴェル生誕150年 ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ ラヴェル／組曲「クープランの墓」 ラヴェル／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」(全曲)* 指揮:シャルル・デュトワ 合唱:二期会合唱団*	一般 S ¥13,000 A ¥11,000 B ¥8,500 C ¥7,000 D ¥5,600 E ¥3,500	ユースチケット S ¥6,500 A ¥5,200 B ¥4,000 C ¥3,500 D ¥2,000 E ¥1,700
2025 12	A	第2051回	《人魚姫》を貫く自己喪失と再生の物語 ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77 ツェムリンスキー／交響詩「人魚姫」 指揮:ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン:レオニダス・カヴァコス	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		11/29(土) 6:00pm 11/30(日) 2:00pm	NHKホール	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
	B	第2052回	オーケストラと大オルガンが名ホールで絢爛に双鳴するひととき 藤倉 大／管弦楽のためのオーシャン・ブレイカー ～ピエール・ブレーズの思い出に～(2025) [NHK交響楽団委嘱作品／世界初演] フランク／交響的変奏曲* サン・サーンス／交響曲 第3番 へ短調 作品78「オルガンつき」 指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:トム・ボロー* オルガン:近藤 岳	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
C	第2053回	ニルゼン最高峰の交響曲をルイーゼ入魂の指揮で味わう ショパン／ピアノ協奏曲 第1番 小短調 作品11 または第2番 へ短調 作品21 ニルゼン／交響曲 第4番 作品29「不滅」 指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400	
	12/12(金) 7:00pm 12/13(土) 2:00pm	NHKホール	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400	

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール		
📺 開場5:00pm 開演6:00pm 📺 開場1:00pm 開演2:00pm		📺 開場6:20pm 開演7:00pm 📺 開場6:20pm 開演7:00pm		📺 開場6:00pm 開演7:00pm 📺 開場1:00pm 開演2:00pm		
2026 01	A 第2054回	ソヒエフ、満を持してN響でマーラーを初披露 マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」		一般 ユースチケット S ¥11,000 S ¥5,500 A ¥9,500 A ¥4,500 B ¥7,600 B ¥3,500 C ¥6,000 C ¥2,800 D ¥5,000 D ¥1,800 E ¥3,000 E ¥1,400		
	1/17 土 6:00pm 1/18 日 2:00pm	指揮:トゥガン・ソヒエフ		一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750		
	NHKホール	お茶芸のプロコフィエフ(第5番)を13年振りにN響で指揮 ムソルグスキー(ショスタコフヴィチ編)／ 歌劇「ホヴァンシチナ」—前奏曲「モスクワ川の夜明け」 ショスタコフヴィチ／ピアノ協奏曲 第2番 へ長調 作品102 プロコフィエフ／交響曲 第5番 変イ長調 作品100		指揮:トゥガン・ソヒエフ ピアノ:松田華音		
B 第2056回	夢幻と高揚に誘う—フランス・ロシアのナラティブな作品たち ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲 デュティユール／チェロ協奏曲「遙かなる遠い国へ」 リムスキー・コルサコフ／組曲「サルタン皇帝の物語」作品57 ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)		指揮:トゥガン・ソヒエフ チェロ:上野通明			
1/29 木 7:00pm 1/30 金 7:00pm	指揮:トゥガン・ソヒエフ		一般 ユースチケット S ¥11,000 S ¥5,500 A ¥9,500 A ¥4,500 B ¥7,600 B ¥3,500 C ¥6,000 C ¥2,800 D ¥5,000 D ¥1,800 E ¥3,000 E ¥1,400			
Sントリーホール	第2055回		名門歌劇場で存在感を放つ ジョルダンのワーグナー シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」 ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」 —「ジークフリートのラインの旅」[「ジークフリートの葬送行進曲」 「ブリュンヒルデの自己犠牲」]*		指揮:フィリップ・ジョルダン ソプラノ:タマラ・ウィルソン*	
C 第2055回	1/23 金 7:00pm 1/24 土 2:00pm		指揮:ヤクブ・フルシヤ ヴァイオリン:ヨゼフ・シュバチェク		一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750	
2026 02	A 第2057回	創立100年に問う N響設立者・近衛の《展覧会の絵》 N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ コダーイ／ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲 フメンル／トランペット協奏曲 ホ長調 ムソルグスキー(近衛秀麿編)／組曲「展覧会の絵」		指揮:ゲルゲイ・マダラシュ トランペット:菊本和昭(N響首席トランペット奏者)		
	2/7 土 6:00pm 2/8 日 2:00pm	指揮:ゲルゲイ・マダラシュ		一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000		
	NHKホール	第2059回		ブルックナーの絶筆に 孤高の中に屹立する精神を見る ハイdn／チェロ協奏曲 第1番 八長調 Hob. VIIb-1 ブルックナー／交響曲 第9番 二短調		指揮:ファビオ・ルイーヂ チェロ:ヤン・フォークラー
B 第2059回	2/19 木 7:00pm 2/20 金 7:00pm		指揮:ファビオ・ルイーヂ クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者)		一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750	
Sントリーホール	第2058回		モーツァルトとマーラーに通底する絶対美の深淵に触れる モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622 マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調		指揮:ファビオ・ルイーヂ	
C 第2058回	2/13 金 7:00pm 2/14 土 2:00pm		指揮:下野竜也		一般 ユースチケット S ¥11,000 S ¥5,500 A ¥9,500 A ¥4,500 B ¥7,600 B ¥3,500 C ¥6,000 C ¥2,800 D ¥5,000 D ¥1,800 E ¥3,000 E ¥1,400	
2026 04	A 第2060回	下野がナビゲートする20世紀日本名曲の旅 N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ 外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 八長調 作品26 伊福部 昭／交響譚詩 ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」—「4つの海の間奏曲」作品33a		指揮:下野竜也 ピアノ:反田恭平		
	4/11 土 6:00pm 4/12 日 2:00pm	指揮:下野竜也		一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750		
	NHKホール	第2062回		指揮:下野竜也		一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000
B 第2061回	4/16 木 7:00pm 4/17 金 7:00pm		指揮:下野竜也		一般 ユースチケット S ¥11,000 S ¥5,500 A ¥9,500 A ¥4,500 B ¥7,600 B ¥3,500 C ¥6,000 C ¥2,800 D ¥5,000 D ¥1,800 E ¥3,000 E ¥1,400	
Sントリーホール	第2062回		指揮:下野竜也		一般 ユースチケット S ¥11,000 S ¥5,500 A ¥9,500 A ¥4,500 B ¥7,600 B ¥3,500 C ¥6,000 C ¥2,800 D ¥5,000 D ¥1,800 E ¥3,000 E ¥1,400	
C 第2062回	4/24 金 7:00pm 4/25 土 2:00pm		指揮:下野竜也		一般 ユースチケット S ¥11,000 S ¥5,500 A ¥9,500 A ¥4,500 B ¥7,600 B ¥3,500 C ¥6,000 C ¥2,800 D ¥5,000 D ¥1,800 E ¥3,000 E ¥1,400	

2026
05

A	第2064回	ドイツ音楽の深い洞察者と奏でるブラームス・プログラム ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102 5/23(土) 6:00pm 5/24(日) 2:00pm NHKホール	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥6,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
	第2063回	「ヤマカズ21」が振る元祖ヤマカズ そして1930年代日独作品の諸相 N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ 山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」 ハルトマン／葬送協奏曲* 須賀田碓太郎／交響的序曲 作品6 ヒンデミット／交響曲「画家マチス」 指揮:山田和樹 ヴァイオリン:キム・スーヤン*	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥6,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
C	第2065回	旧ソ連・ラトビア出身の気鋭が解き明かす 謎多きシスタコーヴィチ(第4番)の真価 ヴァスクス／NHK交響楽団ほか国際共同委嘱作品 【タイトル未定／日本初演】 シスタコーヴィチ／交響曲 第4番 ハ短調 作品43 指揮:アンドリス・ボーガ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000

2026
06

A	第2067回	ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーデン 待望のN響初登場 ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲 モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 長調 K. 453 バルトーク／管弦楽のための協奏曲 指揮:ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン ピアノ:コンラッド・タオ	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
	第2066回	ドゥナーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス名曲選 オネゲル／交響詩「夏の牧歌」 ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7 イベール／寄港地 ドビュッシー／交響詩「海」 指揮:ステファヌ・ドゥナーヴ メゾ・ソプラノ:ガエル・アルケーズ	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥6,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
C	第2068回	尾高のリリズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI、N響定期に初登場 シベリウス／アンダンテ・フェスティーヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44 指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥6,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

(料金はすべて税込)

速報 2026-27定期公演プログラム (2026年9月~2027年6月)

2026 09	A	<p>第2069回</p> <p>9/12(土) 6:00pm 9/13(日) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>N響100年特別企画</p> <p>フランツ・シュミット／オラトリオ「7つの封印の書」</p> <p>指揮:ファビオ・ルイーゼ ヨハネ(テノール):ミヒヤエル・ラウレンツ 神の声(バス):ダーヴィト・シュテフェンス ソプラノ:迫田美帆 メゾ・ソプラノ:藤井麻美 テノール:伊藤達人 バス:加藤宏隆 合唱:新国立劇場合唱団</p>
	B	<p>第2070回</p> <p>9/17(木) 7:00pm 9/18(金) 7:00pm</p> <p>サントリーホール</p>	<p>ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲 ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77 シューマン／交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版)</p> <p>指揮:ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン:アウグスティン・ハーデリヒ</p>
	C	<p>第2071回</p> <p>9/25(金) 7:00pm 9/26(土) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏1</p> <p>ベートーヴェン／交響曲 第1番 八長調 作品21 ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」</p> <p>指揮:ファビオ・ルイーゼ</p>
2026 10	A	<p>第2072回</p> <p>10/17(土) 6:00pm 10/18(日) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>ブルックナー／交響曲 第5番 変ロ長調</p> <p>指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット</p>
	B		<p>10月Bプログラムは特別公演開催のため休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみさまは 2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。</p>
	C	<p>第2073回</p> <p>10/23(金) 7:00pm 10/24(土) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏2</p> <p>ベートーヴェン／「エグモント」序曲 ベートーヴェン／交響曲 第8番 へ長調 作品93 ベートーヴェン／交響曲 第5番 八短調 作品67「運命」</p> <p>指揮:クリストフ・エッセンバッハ</p>
2026 11	A	<p>第2074回</p> <p>11/7(土) 6:00pm 11/8(日) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品19 ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 八短調 作品65</p> <p>指揮:トウガン・ソヒエフ ヴァイオリン:神尾真由子</p>
	B	<p>第2076回</p> <p>11/19(木) 7:00pm 11/20(金) 7:00pm</p> <p>サントリーホール</p>	<p>ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 八短調 作品18 チャイコフスキー／バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71(抜粋)</p> <p>指揮:トウガン・ソヒエフ ピアノ:アレクサンドル・カントロフ</p>
	C	<p>第2075回</p> <p>11/13(金) 7:00pm 11/14(土) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏3</p> <p>ベートーヴェン／序曲「コリオラン」 ベートーヴェン／交響曲 第2番 二長調 作品36 ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」</p> <p>指揮:トウガン・ソヒエフ</p>

	A NHKホール 開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	B サントリーホール 開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm	C NHKホール 開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm
2026 12	A 第2077回 11/28(土) 6:00pm 11/29(日) 2:00pm ※12月定期公演Aプログラムは11月に開催いたします。 NHKホール	ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第2番 ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14 ほか 指揮:シャルル・デュトワ ピアノ:マルタ・アルゲリッチ	
	B 第2079回 12/10(木) 7:00pm 12/11(金) 7:00pm サントリーホール	モーツァルト／歌劇「魔笛」序曲 スルンカ／チェロ協奏曲[NHK交響楽団100年記念委嘱作品/世界初演] メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」 指揮:マキシム・エメリヤニチェフ チェロ:ニコラ・アルトシュテット	
	C 第2078回 12/4(金) 7:00pm 12/5(土) 2:00pm NHKホール	N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏4 ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60 ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92 指揮:シャルル・デュトワ ※ベートーヴェン(交響曲第9番「合唱つき」)は、2026年末の「ベートーヴェン[第9]演奏会」で演奏予定です(指揮:マレク・ヤノフスキ)。	
2027 01	A 第2080回 1/16(土) 6:00pm 1/17(日) 2:00pm NHKホール	マーラー／交響曲 第9番 二長調 指揮:ファビオ・ルイーゼ	
	B	2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。	
	C 第2081回 1/22(金) 7:00pm 1/23(土) 2:00pm NHKホール	ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏1 ソレンセン／夕暮れの大地 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15 ニルセン／交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」 指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:アレクサンドロ・タヴェルナ	
2027 02	A 第2082回 2/6(土) 6:00pm 2/7(日) 2:00pm NHKホール	バッハ(ウェーベルン編)／「音楽のさざげもの」BWV1079—6声のリチエルカール マーラー／リュッケルトによる5つの歌 シェーンベルク／室内交響曲 第2番 作品38 シューベルト／交響曲 第7番 ロ短調 D.759「未完成」 指揮:アントネッロ・マナコルダ バリトン:アンドレ・シユェン	
	B	2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。	
	C 第2083回 2/12(金) 7:00pm 2/13(土) 2:00pm NHKホール	ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏2 シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19 尾高尚尚／交響詩「蘆屋乙女」作品9 ハヌフニク／交響曲 第2番「悲歌」 指揮:尾高忠明 ピアノ:イム・ユンチャン	

速報 2026-27定期公演プログラム (2026年9月～2027年6月)

2027 04	A	第2084回 4/10 土 6:00pm 4/11 日 2:00pm NHKホール	メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64 R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64 指揮:ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス
	B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホール <small>の改修工事に伴い休止いたします。</small> 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。
	C	第2085回 4/23 金 7:00pm 4/24 土 2:00pm NHKホール	ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏3 ドヴォルザーク／交響詩「真昼の魔女」作品108 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 八短調 作品37 チン・ウンスク／スピト・コン・フォルツァ ショスタコフヴィチ／交響曲 第9番 変ホ長調 作品70 指揮:エリム・チャン ピアノ:アリス・紗良・オット
2027 05	A	第2086回 5/8 土 6:00pm 5/9 日 2:00pm NHKホール	グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 ステンハンマル／交響曲 第2番 ト短調 作品34 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:デニス・コジュヒン
	B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホール <small>の改修工事に伴い休止いたします。</small> 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。
	C	第2087回 5/21 金 7:00pm 5/22 土 2:00pm NHKホール	ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏4 リュリ／バレエ音楽「町人貴族」(抜粋) ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 作品58 R. シュトラウス／組曲「町人貴族」作品60 指揮:ケント・ナガノ ピアノ:ティル・フェルナー
2027 06	A	第2088回 6/5 土 6:00pm 6/6 日 2:00pm NHKホール	モーツァルト／交響曲 第35番 二長調 K. 385「ハフナー」 ブルックナー／交響曲 第3番 二短調「ワーグナー」 指揮:トッガン・ソヒエフ
	B		2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホール <small>の改修工事に伴い休止いたします。</small> 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは2027-28シーズン(2027年9月～2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。
	C	第2089回 6/18 金 7:00pm 6/19 土 2:00pm NHKホール	ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏5 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40 指揮:トーマス・グッガイス ピアノ:キリル・ゲルシュタイン

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
 ※料金、発売日等チケットの詳細は2026年3月末に発表予定です。

速報 2026-27 特別公演

2026-27シーズンで定期公演Bプログラム(サントリーホール)が
開催されない月(2026年10月/2027年1月~2月/2027年4月~6月)に行う、
特別公演のラインアップをご紹介します。

2026/10 巨匠たちによるブラームス交響曲全曲演奏 東京芸術劇場

10/30 **金** 7:00pm

ブラームス/交響曲 第2番 二長調 作品73
ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98
指揮:ヘルベルト・プロムシュテット

10/31 **土** 4:00pm

ブラームス/交響曲 第3番 へ長調 作品90
ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68
指揮:クリストフ・エッシェンバッハ

2027/01 ルイーゼ指揮 N響ニューイヤーコンサート NHKホール

1/10 **日** 3:00pm

1/11 **月祝** 3:00pm

ワーグナー/歌劇「リエンチ」序曲
ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」*
ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—「きみこそは春」*
ワーグナー/歌劇「ローエングリン」—聖杯の物語「はるかな国に」*
ワーグナー/歌劇「タンホイザー」—「おごそかなこの広間よ」*
ワーグナー/歌劇「トリスタンとイゾルデ」—「愛の夜よ、とばりを降ろせ」*
J.シュトラウスII世/喜歌劇「こうもり」—序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」*
レハール/喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」*
レハール/喜歌劇「メリー・ウイダー」—「ヴィリアの歌」*
カールマーン/喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」—「ウィーンによるしく」*
J.シュトラウスII世/皇帝円舞曲 作品437
レハール/喜歌劇「ほほえみの国」—「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」*
指揮:ファビオ・ルイーゼ
ソプラノ:カミラ・ニールド*
テノール:クラウス・フロリアン・フォークト*

2027/02 初演300年記念 コープマンの《マタイ受難曲》 NHKホール

2/20 **土** 開演時刻未定

2/21 **日** 開演時刻未定

バッハ/マタイ受難曲 BWV244
指揮:トン・コープマン
福音史家(テノール):ティルマン・リヒティ
イエス(バス・バリトン):クラウス・メルテンス
合唱:アムステルダム・バロック合唱団
児童合唱:東京少年少女合唱隊

速報 2026-27 特別公演

2027/04-06 | 東京芸術劇場シリーズ | 東京芸術劇場 | 木 7:00pm | 金 7:00pm (各3回)

最高峰の指揮者のタクトで、バレエ音楽の名作やN響メンバーのソロを織り交ぜながらお贈りします。

※セット券(曜日ごとの通し券)の発売を予定しています。

4/15 木 7:00pm

フランツ・シュミット / 歌劇「ノートルダム」—「間奏曲と謝肉祭の音楽」

4/16 金 7:00pm

ヒンデミット / バレエ組曲「気高い幻想」

R. シュトラウス / 交響詩「ドン・キホーテ」作品35*

指揮: ファビオ・ルイーゼ

チェロ: 辻本 玲*

5/13 木 7:00pm

ドビュッシー / 牧神の午後への前奏曲

5/14 金 7:00pm

ランサン / ハープと管弦楽のための田園協奏曲

タイユフェール / 小組曲

ラヴェル / バレエ組曲「ダフニスとクロエ」第1番、第2番

指揮: 沖澤のどか

ハープ: 早川りさこ

6/10 木 7:00pm

プロコフィエフ / 交響曲 第1番 二長調 作品25「古典」

6/11 金 7:00pm

モーツァルト / 4つの管楽器と管弦楽のための協奏交響曲 変ホ長調 K. 297b

ストラヴィンスキー / バレエ音楽「春の祭典」

指揮: トウガン・ソヒエフ

オーボエ: 中村周平

クラリネット: 松本健司

ファゴット: 宇賀神広宣

ホルン: 今井仁志

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
※各公演の料金、発売日等チケットの詳細は、決まり次第N響ホームページ等でお知らせいたします。

特別公演

10/29(水) 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート2025

サントリーホール

指揮:大友直人 チェロ:鳥羽咲音

ドヴォルザーク/チェロ協奏曲 口短調 作品104

シベリウス/交響曲 第2番 二長調 作品43

料金(税込):一般 | SS席8,500円 S席6,500円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円

ユースチケット(29歳以下) | SS席4,200円 S席3,200円 A席2,500円 B席1,700円 C席1,200円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 6月23日(月)10:00am

一般 | 6月27日(金)10:00am

主催:NHK交響楽団

特別協賛:株式会社明電舎

12/8(月) 7:00pm | 放送100年 N響×アニメ「青のオーケストラ」スペシャル・コンサート

NHK ホール

指揮:キンボー・イシイ

ヴァイオリン:東 亮汰*(劇中で青野 一の演奏を担当) 山田友里恵*(劇中で秋音律子の演奏を担当)

クリスマス・メドレー(もろびとこぞりて~アヴェ・マリア~ハレルヤ・コーラス/萩森英明編)

ドヴォルザーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」—第4楽章

チャイコフスキー/バレエ組曲「くるみ割り人形」作品71a—「花のワルツ」

バッハ/2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1043から**

メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64—第1楽章から*

サン・サーンス/歌劇「サムソンとデリラ」—「バッカナール」

芥川也寸志/交響管弦楽のための音楽

料金(税込):一般 | S席9,000円 A席8,000円 B席6,000円 C席5,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席4,500円 A席4,000円 B席3,000円 C席2,500円

チケット発売日:10月10日(金)10:00am

※N響定期会員の先行販売および割引はございません

主催:NHK、NHK交響楽団

協力:小学館

12/20 **土** 4:00pm

12/21 **日** 2:00pm

12/23 **火** 7:00pm

12/24 **水** 7:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHKホール

指揮:レナード・スラットキン

ソプラノ:中村恵理 メゾ・ソプラノ:藤村実穂子 テノール:福井 敬 バリトン:甲斐栄次郎 合唱:新国立劇場合唱団
ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月19日(金)10:00am

一般 | 9月23日(火・祝)10:00am

※12月23日はNHK／NHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。プログラムは他の日程と同一です。お問合せ:NHK厚生文化事業団 TEL(03)3476-5955

主催:NHK・NHK交響楽団／NHK・NHK厚生文化事業団(23日公演のみ)

協賛:みずほ証券株式会社／はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎

12/26 **金** 7:00pm | かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:レナード・スラットキン

ソプラノ:中村恵理 メゾ・ソプラノ:藤村実穂子 テノール:福井 敬 バリトン:甲斐栄次郎

合唱:新国立劇場合唱団 オルガン:近藤 岳*

バッハ／前奏曲とフーガ 変ホ長調 BWV552*

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席20,000円 A席16,500円 B席13,000円 C席9,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席10,000円 A席8,200円 B席6,500円 C席4,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月19日(金)10:00am

一般 | 9月23日(火・祝)10:00am

主催 / NHK交響楽団 特別協賛 / 株式会社かんぼ生命保険

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間:10:00am～5:00pm

定休日:土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

10/13 **月祝** **3:00pm** | **NHK交響楽団ベストクラシックス**
沼尻竜典×岡本誠司(Vn)×NHK交響楽団

かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮:沼尻竜典 ヴァイオリン:岡本誠司
ロッシーニ／歌劇「ウィリアム・テル」序曲
ブルッフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 作品26
ドヴォルザーク／交響曲 第8番 ト長調 作品88

主催:葛飾区文化施設指定管理者 お問い合わせ:かつしかシンフォニーヒルズ TEL(03)5670-2233

11/3 **月祝** **3:00pm** | **NHK交響楽団 パルテノン多摩演奏会**

パルテノン多摩 大ホール

指揮:広上淳一 ピアノ:小林海都
伊福部 昭／SF交響ファンタジー 第1番
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K.467
ラヴェル／ボレロ
ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第1番、第2番

主催:パルテノン多摩共同事業体 お問い合わせ:パルテノン多摩 TEL(042)376-8181

11/23 **日** **3:30pm** | **NHK交響楽団 豊田公演**

豊田市民文化会館

指揮:ラファエル・バヤレ ピアノ:エマニュエル・アックス
シューマン／「マンフレッド」序曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調 K.503
R.シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

主催:(公財)豊田市文化振興財団／豊田市 お問い合わせ:豊田市コンサートホール・能楽堂 TEL(0565)35-8200

12/16 **火** **7:00pm** | **映像の世紀コンサート**

サントリーホール

指揮:下野竜也 音楽・ピアノ:加古 隆 ナレーション:山根基世
加古 隆／バリは燃えているか、時の刻印、シネマトグラフ、はるかなる王宮、神のバッサカリア、最後の海戦、
未来世紀、大いなるもの東方より、マネーは踊る、狂気の影、黒い霧、ザ・サード・ワールド、睡蓮のアトリエ、
愛と憎しみの果てに

主催:エイベックス・クラシックス お問い合わせ:チケットスペース TEL(03)3234-9999

2/27(日)7:00pm | 都民音楽フェスティバル オーケストラ・シリーズ No. 57 NHK交響楽団

東京芸術劇場

指揮:横山 奏 フルート:工藤重典
モーツァルト/歌劇「イドメネオ」序曲
モーツァルト/フルート協奏曲 第1番 ト長調 K. 313
チャイコフスキー/バレエ音楽「白鳥の湖」作品20 (抜粋)
主催:(公社)日本演奏連盟 お問い合わせ: TEL(03)3539-5131

2/22(日)5:00pm | NHK交響楽団演奏会 倉敷公演

倉敷市民会館

指揮:ヤクブ・フルシャ ヴァイオリン:ヨゼフ・シュパチェク
ドヴォルザーク/ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53
ブラームス/セレナード 第1番 二長調 作品11
主催:NHK岡山放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

2/23(月)4:00pm | NHK交響楽団 特別演奏会

福岡シンフォニーホール

出演者・曲目は2月22日と同じ
主催:(公財)アクロス福岡 お問い合わせ:アクロス福岡チケットセンター TEL(092)725-9112

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

11/2(日)3:30pm

出演者・曲目は11月3日と同じ

横浜みなとみらいホール 大ホール

1/11(日)3:30pm

指揮:トウガン・ソヒエフ
ベートーヴェン/交響曲 第7番 イ長調 作品92
ロッシーニ/歌劇「どろぼうかささぎ」序曲
バーバー/弦楽のためのアダージョ
ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—「ワルキューレの騎行」
ヨハン・シュトラウスII世/ワルツ「美しく青きドナウ」作品314
主催・お問い合わせ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

曲目解説執筆者

池上健一郎(いけがみ けんいちろう)

京都市立芸術大学教授、ヴェルツブルク大学でハイドンと古典派時代の音楽に関する研究により博士号取得。専門は18～19世紀のドイツ語圏の音楽。著書に『ハイドン』(作曲家・人と作品シリーズ)、訳書に『アントン・ブルックナー』(フェーリクス・ディアガーテン著)、論文に「ハイドンのシンフォニーにおける変奏反復と管弦楽法のストラテジー」(『音楽学』)など。

小林ひかり(こばやし ひかり)

北欧音楽研究家。大阪大学大学院文学研究科(音楽学)博士後期課程修了。訳書にアーリング・ダール著『グリーグ—その生涯と音楽』、論文に「近代日本におけるグリーグの音楽の受容」など。

星野宏美(ほしの ひろみ)

立教大学教授。専門は西洋音楽史、とくにメンデルスゾーンを中心とした19世紀音楽。著書に『メンデルスゾーンの宗教音楽—バハハ復活からオラトリオ《パウロ》と《エリヤ》へ』『メンデルスゾーンのスコットランド交響曲』、楽譜の共同校訂にベーレンライター原典版の『メンデルスゾーン:ヴァイオリン・ソナタ集』、論文に「さまよえる《パウロ》—オラトリオ作曲家メンデルスゾーンの長い影」(『ワグナー・ジュンボション2020』)など。

(五十音順、敬称略)

お詫びと訂正

本誌「Philharmony」2025年9月号にて誤りがありました。
お詫び申し上げますとともに、以下の通り訂正をさせていただきます。

21頁Aプログラム「Program Notes」導入文4行目
[誤] 後身の育成に～
[正] 後進の育成に～

N響の出演番組

定期公演や特別公演の様子が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館(N響定期公演ほか)

Eテレ 日曜9:00～11:00pm

ベストオブクラシック

FM 7:35～9:15pm

※2025年度から放送時間が変更になりました。

N響演奏会

FM 土曜4:00～5:50pm(不定期)

クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます)

Eテレ 木曜9:00～9:30pm

月曜2:00～2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後もNHK ONE(新NHKプラス)や「らじる★らじる」で1週間何度でもご視聴いただけます。出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢陽一
NTT東日本株式会社	代表取締役社長 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO 小池昌洋
株式会社ポケモン	代表取締役社長 石原恒和

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 松村洋季	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 石原 勉
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK営業サービス(株) 代表取締役社長 手島一宏
・ AXLBIT(株) 代表取締役 長谷川章博	・ (-財)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 有吉伸人
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長 大西安樹	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (学)NHK学園 理事長 荒木美弥子
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ 岩田地崎建設(株) 代表取締役社長 岩田圭剛	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長 神田真介

- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHKテクノロジーズ
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHKビジネスクリエイト
代表取締役社長 | 椿 健一郎
- ・(株)NHKプロモーション
代表取締役社長 | 見郎俊一
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 川口 晋
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレクトク
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・(株)大塚商会
代表取締役社長 | 大塚裕司
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 井上 眞
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 佐藤俊美
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント グループ(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 田母神博文
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・木下彰子
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 小潤敏郎
- ・(-社)共同通信社
社長 | 沢井俊光
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
天野貴夫
- ・KDDI(株)
代表取締役社長CEO | 松田浩路
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・コグニティブリサーチラボ(株)
代表取締役 | 苦米地英人
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 鳥井信宏
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シングマックス・ホールディングス
代表取締役社長 | 太田 寛
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 林 秀明
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新角卓也
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパー JSAT ホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 会長兼社長 | 古江訓雄
- ・鈴木誠一郎
- ・友友商事(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾
- ・友友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関研商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役社長 | 澤本 泉
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長グループCEO | 村松俊亮

・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 石川耕治

・第一三共(株)
代表取締役会長 | 眞鍋 淳

・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮

・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎

・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明

・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人

・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二

・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人

・(株)竹中土木
取締役社長 | 竹中祥悟

・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗

・田原 昇

・(株)ダブルスタンダード
代表取締役 | 清水康裕

・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 前田鎮男

・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔

・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修

・(株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 佐野 傑

・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武

・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭

・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹羽俊介

・東急(株)
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博

・(株)東急コミュニティー
代表取締役社長 | 木村昌平

・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創

・(株)東京交通会館
取締役社長 | 細包憲志

・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通

・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊

・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子

・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一

・東北電力(株)
代表取締役社長 | 石山一弘

・鳥取末広座(株)
代表取締役 | 西川八重子

・(一財)TOPPAN三幸会
代表理事 | 金子眞吾

・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 佐藤恒治

・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌

・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人

・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩

・日東紡績(株)
取締役 代表執行役会長 | 辻 裕一

・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子

・日本カイン(株)
取締役社長 | 小林 茂

・(株)日本カストディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕

・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 前田浩志

・日本たばこ産業(株)
代表取締役社長 | 寺島正道

・日本運通(株)
代表取締役社長 | 竹添進二郎

・日本電気(株)
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之

・日本BCP(株)
代表取締役社長 | 角谷育則

・(一財)日本放送協会共済会
理事長 | 竹添賢一

・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役社長 | 安嶋 明

・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 根岸一行

・(株)ニトリホールディングス
代表取締役会長兼CEO | 似鳥昭雄

・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春

・野田浩一

・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎

・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規

・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫

・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦

・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣

・(株)ピー・ジー・エム
代表取締役 | 山川慎一郎

・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆

・福田三千男

・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁

・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 柳田龍治

・古川宣一

・ペプチドリーム(株)
代表取締役社長CEO | リード・パトリック

・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明

・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫

・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一

・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義

・ポラリス・キャピタル・グループ(株)
代表取締役社長 | 木村雄治

・前田工織(株)
代表取締役社長 | 前田尚宏

・牧 寛之

・町田優子

・丸紅(株)
代表取締役社長 | 大本晶之

・溝江建設(株)
代表取締役 | 溝江 弘

- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗格
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 近藤明人
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直昭
- ・明治ホールディングス(株)
代表取締役社長CEO | 松田克也
- ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
- ・メットライフ生命保険(株)
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン
- ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 松岡祐治
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 岩上秀憲
- ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO | 笠井 徹
- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 白鳥正美
- ・ルーム(株)
代表取締役社長 社長執行役員 | 東 克己
- ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田渕浩記
- ・YCC(株)
代表取締役社長 | 中山武之
- ・(株)ワールド航空サービス
代表取締役社長 | 菊間陽介

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『「第9」演奏会プログラム』等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右のQRコードを読み取る。またはURLを入力
<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
Ayumu Iizuka
○ Kyoko Une
Yuki Oshika
○ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Taiga Tojo
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
Hiroyuki Matsuda
○ Haruhiko Mimata
Nana Miyagawa
○ Tsutomu Yamagishi
○ Koichi Yokomizo

2nd Violins

- Rintaro Omiya
○ Masahiro Morita
Maiko Saito
○ Keiko Shimada
○ Atsushi Shirai
○ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiko Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
Ryuto Murao
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
○ Masamichi Yokoshima
Toshiro Yokoyama
Yuka Yoneda
* Reika Shimizu
* Yui Yuhara

Violas

- Ryo Sasaki
○ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Satoshi Ono
Shigetaka Obata
* Eri Kuribayashi
□ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hirotō Tobisawa
○ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
Yuya Minorikawa
○ Ryo Muramatsu

Cellos

- Rei Tsujimoto
○ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
○ Miho Naka
○ Ken'ichi Nishiyama
Shunsuke Fujimura
Koichi Fujimori
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
Yusuke Yabe
○ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

- Shu Yoshida
○ Masanori Ichikawa
Eiji Inagawa
○ Jun Okamoto
Takashi Konno
○ Shinji Nishiyama
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

- Masayuki Kai
○ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
Junji Nakamura

Oboes

- Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
* Shuhei Nakamura
Hitoshi Wakui

Clarinets

- Kei Ito
○ Kenji Matsumoto
* Hiroki Domen
Takashi Yamane

Bassoons

- Hironori Ugajin
○ Kazusa Mizutani
* Shusuke Ouchi
Yuki Sato
Itaru Morita

Horns

- Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Yudai Shoji
Kazuko Nomiyama

Trumpets

- Kazuaki Kikumoto
○ Tomoyuki Hasegawa
Tomoki Ando
Kotaro Fujii

Eiji Yamamoto

Trombones

- Hikaru Koga
○ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- Shoichi Kubo
☆ Toru Uematsu

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemitsu Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga

Librarians

Akane Oki
Hideyo Kimura

(© Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector, * Intern)

PROGRAM

A

Concert No. 2046

NHK Hall

October

18 (Sat) 6:00pm

19 (Sun) 2:00pm

conductor	Herbert Blomstedt
soprano	Christina Landshamer*
mezzo soprano	Marie Henriette Reinhold*
tenor	Tilman Lichdi*
chorus	Swedish Radio Choir
concertmaster	Kota Nagahara
cover conductor	Michel Tabachnik♦

♦ **Michel Tabachnik:** After playing a major role as Chief Conductor and Artistic Director of the Brussels Philharmonic until June 2015, Michel Tabachnik is now its Conductor Emeritus. He is also the guest of prestigious institutions such as the SWR Symphonieorchester, Konzerthausorchester Berlin, the Orchestra del Teatro La Fenice in Venice, the St. Petersburg Philharmonic Orchestra, the Budapest Festival Orchestra, the Orchestra Sinfonica Nazionale della Rai, the Orchestre de Paris and festivals such as Luzern or Salzburg. Alongside his activity as a conductor, Michel Tabachnik is also a composer and writer. Several of his works have been recently premiered, the *Prélude à la légende* at the Besançon Festival, the Violin Concerto with the Brussels Philharmonic, *Le livre de Job* at the Cité de la musique in Paris.

Igor Stravinsky**Symphony of Psalms** [21']

- I Exaudi orationem meam, Domine
 II Expectans expectavi Dominum
 III Alleluja. Laudate Dominum

— intermission (20 minutes) —

Felix Mendelssohn Bartholdy
Symphony No. 2 B-Flat Major Op. 52,
Lobgesang (Hymn of Praise)* [65']

- No. 1 Sinfonia (Maestoso con moto – Allegro –
 Allegretto un poco agitato – Adagio religioso)
 No. 2 Alles, was Odem hat, lobe den Herrn
 (Everything that has breath, praise the Lord)
 No. 3 Saget es, die ihr erlöst seid durch den
 Herrn (Say it that you are redeemed by the Lord)

- No. 4 Sagt es, die ihr erlöst seid von dem
 Herrn aus aller Trübsal (Say it that you are
 redeemed by the Lord out of all tribulation)
 No. 5 Ich harrete des Herrn (I waited for the Lord)
 No. 6 Stricke des Todes (The sorrows of death)
 No. 7 Die Nacht ist vergangen (The night has
 passed)
 No. 8 Nun danket alle Gott (Now thank we
 all our God)
 No. 9 Drum sing ich mit meinem Liede (So I
 sing with my song)
 No. 10 Ihr Völker! Bringet her den Herrn (You
 peoples! Give unto the Lord)

Japanese Supertitles: Hiromi Hoshino
 Supertitles Operation: Zimaku Plus Inc.

- All performance durations are approximate.

Herbert Blomstedt, conductor



In more than seventy years of his career, Herbert Blomstedt has acquired the unrestricted respect of the musical world. His work as a conductor is inseparably linked to his religious and human ethos, and his interpretations combine great faithfulness to the score and analytical precision, with a soulfulness that awakens the music to pulsating life.

Born in the USA to Swedish parents and educated in Uppsala, New York, Darmstadt and Basel, Herbert Blomstedt gave his conducting debut in 1954 with the Royal Stockholm Philharmonic Orchestra and subsequently served as Chief Conductor of the Oslo Philharmonic, the Swedish and Danish Radio Orchestras, and the Staatskapelle Dresden. Later, he became Music Director of the San Francisco Symphony, Chief Conductor of the NDR Sinfonieorchester Hamburg (now NDR Elbphilharmonie Orchestra) and Music Director of the Gewandhausorchester Leipzig. His former orchestras in San Francisco, Leipzig, Copenhagen, Stockholm and Dresden all honored him with the title of Conductor Laureate. Since 2019, he is an Honorary Member of the Wiener Philharmoniker.

Herbert Blomstedt holds several Honorary Doctorates, is an elected member of the Royal Swedish Academy of Music and was awarded the German Great Cross of Merit with Star. Over the years, all leading orchestras around the globe have been fortunate to secure the services of the highly respected Swedish conductor. At the high age of 98, he continues to be at the helm of all leading international orchestras with enormous presence, verve and artistic drive.

Since performing together for the first time in 1981, Herbert Blomstedt has been conducting the NHK Symphony Orchestra almost every year for over 40 years; he was Honorary Conductor 1986–2016, and currently Honorary Laureate. His previous appearance was in October 2024.

Christina Landshamer, soprano



Christina Landshamer is one of today's most sought-after concert, opera, and recital singers, renowned for her nuanced musicality and stylistic command. She collaborates regularly with leading conductors such as Herbert Blomstedt, Kirill Petrenko, Simon Rattle, Alan Gilbert, Manfred Honeck, Marek Janowski, Marie Jacquot, Pablo Heras-Casado, Christian Thielemann, and Gustavo Dudamel. Her repertoire ranges from Baroque to contemporary music, which she interprets with precision and expressive depth. She has performed with top orchestras including the Berliner Philharmoniker, the Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, Staatskapelle Dresden, the Gewandhausorchester Leipzig, the Tonhalle-Orchester Zürich, the Orchestre de Paris, the NHK Symphony Orchestra, and the Cleveland Orchestra.

On the opera stage, she has appeared at the Staatsoper Stuttgart, the Komische Oper Berlin, the Opéra national du Rhin in Strasbourg, and the Bayerische Staatsoper, singing roles such as Pamina, Ännchen, Sophie, and Woglinde. As a recitalist, she performs regularly with her long-time piano partner Gerold Huber at major venues including the Schubertiade Schwarzenberg, the Wigmore Hall London, and the Carnegie Hall New York. In 2024, she was appointed Professor

of Voice at the State University of Music and Performing Arts Stuttgart.

She previously appeared with the NHK Symphony Orchestra in Beethoven's Ninth Symphony in December 2022.

Marie Henriette Reinhold, mezzo soprano



Born in Leipzig, Marie Henriette Reinhold studied with Professor Elvira Dreßen at the Hochschule für Musik und Theater in Leipzig, from which she graduated with distinction in 2020.

She is in great demand as soloist across Germany and abroad. She has appeared with ensembles including the Gaechinger Cantorey, Orchestre des Champs-Élysées, Collegium Vocale Gent, Münchener Bach-Chor, Concerto Köln, and Gewandhausorchester Leipzig. She has sung under the baton of many renowned conductors, such as Hans-Christoph Rademann, Andreas Reize, Dima Slobodeniouk, Frieder Bernius, Philippe Herreweghe, Semyon Bychkov, Herbert Blomstedt, Paavo Järvi, and Christian Thielemann.

In opera, Marie Henriette Reinhold has appeared at the Bayreuther Festspiele since 2019. At the 2024 festival, she sang one of the flower maidens and the Voice from Above in Wagner's *Parsifal* under Pablo Heras-Casado, and Flosshilde and Grimgerde in *Der Ring des Nibelungen* under Simone Young. She will sing all five roles in 2025 as well.

Marie Henriette Reinhold has many CD recordings to her name on a variety of labels. Most recently, the CDs of the 'Vision.Bach' series by the Gaechinger Cantorey were released, as well as the live recording of the premiere of *Parsifal* at the Bayreuther Festspiele 2023.

This is her first appearance with NHK Symphony Orchestra.

Tilman Lichdi, tenor



Tilman Lichdi has established himself as one of the most important concert and song interpreters, particularly as the Evangelist in Bach's oratorios and passions.

He has sung concerts in Europe, the USA, Australia, South America, and Asia with conductors such as Ton Koopman, Thomas Hengelbrock, Martin Haselböck, Peter Dijkstra, Frieder Bernius, Christof Perick, Bernard Labadie, Marcus Bosch, Hervé Niquet, Hartmut Haenchen, Kent Nagano, Christoph Poppen, Claus Peter Flor, Mikhail Pletnev, Michel Corboz, Hans-Christoph Rademann, Teodor Currentzis, and Herbert Blomstedt.

Among his many recordings, two recordings of Schubert's song cycles are particularly noteworthy: *Die schöne Müllerin* and *Die Winterreise*, both in a new arrangement for voice and guitar.

From 2005 to 2013, Tilman Lichdi was a permanent member of the ensemble at the Staatstheater Nürnberg. There, he embodied roles such as David and Steersman in Wagner's *Die Meistersinger von Nürnberg* and *Der fliegende Holländer*, Tamino, Ferrando, Don Ottavio in Mozart's *Die Zauberflöte*, *Così fan tutte*, *Don Giovanni*, and Count Almaviva in Rossini's *Il*

barbière di Siviglia. He is the recipient of the Richard Strauss Plaque and the Bavarian Art Promotion Prize 2012 in the performing arts.

Tilman Lichdi previously appeared with the NHK Symphony Orchestra in 2019 in Mozart's *Mass in C minor*.

Swedish Radio Choir, chorus

Founded in 1925, the Swedish Radio Choir celebrates its centenary this year. With its acclaimed recordings, radio broadcasts and tours, the group has made a name for itself as one of the leading choirs in the world.

The Swedish Radio Choir meets its audience on its home stage in Berwaldhallen in Stockholm, the concert hall of Swedish Radio, as well as in concert halls around the country and on tours worldwide. Since 2020, its chief conductor has been the multi-award-winning Latvian choral conductor Kaspars Putniņš.

The choir is known for its multifaceted repertoire, ranging from classical choral works to groundbreaking new vocal music through collaborations with prominent contemporary composers. The choir has always been an important part of Swedish Radio's cultural activities: In 2010, the Swedish Radio Choir was awarded the Government's Honorary Prize at the Music Export Prize ceremony for having "put Swedish choral music on the map for more than half a century."

The choir's extensive catalog of recordings includes many critically acclaimed and award-winning recordings, including several with Claudio Abbado.

The Swedish Radio Choir last performed with the NHK Symphony Orchestra at its 75th anniversary concerts in 2001.

Program Notes

Igor Stravinsky (1882–1971)

Symphony of Psalms

Today's program pairs two symphonic works for orchestra and chorus, both set to the text from the Book of Psalms in the Bible.

Igor Stravinsky is best known for his ballet scores composed for the Ballet Russes in the 1910s, but his creative output spanned almost seventy years and he remained a hugely influential figure. He grew up in St. Petersburg in a musical environment since his father was a renowned opera singer at the Mariinsky Theatre. After studying composition privately with Rimsky-Korsakov, he met the impresario Sergei Diaghilev of Ballet Russes who commissioned him to write the ballet music of *The Firebird*, *Petrushka* and *The Rite of Spring* which caused a sensation in Paris. In his subsequent works, however, he turned from his groundbreaking modernism to a neo-classical style, composing works such as *Pulcinella*, the Violin Concerto, and *Symphony of Psalms* performed today.

Symphony of Psalms was commissioned by Serge Koussevitzky, the music director of the Boston Symphony Orchestra, for the orchestra's 50th anniversary season in 1930. Stravinsky chose three texts from the Book of Psalms in the Latin translation.

The compact but powerful first movement opens with a succession of E minor chords. The chorus enters with the plea of “Exaudi orationem meam, Domine (Hear my Prayer, O Lord)” which fluctuates between the semitones of E and F over pulsating orchestral rhythms. The second movement is formed of two sets of fugues: one fugue for the orchestra and another for the chorus which begins with “Expectans expectavi Dominum (I waited patiently for the Lord),” a text which Mendelssohn also used in *Lobgesang*.

The final movement, a setting of the joyful Psalm 150, is comprised of a slow introductory section (Alleluja) and a fast section. For Stravinsky, Psalm 150 was “a song to be danced” and indeed the movement is joyful and rhythmic, interspersed with meditative sections. It ends meditatively with the words “Omnis spiritus laudet Dominum, Alleluja (Everything that has breath, praise the Lord, Alleluja)” the same text that opens the cantata section of Mendelssohn's *Lobgesang*.

Felix Mendelssohn Bartholdy (1809–1847)

Symphony No. 2 B-Flat Major Op. 52, *Lobgesang* **(*Hymn of Praise*)**

Felix Mendelssohn Bartholdy was a leading figure in the early 19th-century music scene as conductor, pianist, and organist, and above all as composer. Born into a wealthy family, he showed exceptional musical talent from an early age on both the piano and violin. He studied composition with Carl Zelter, the conductor of the Singakademie in Berlin who instilled in him a deep admiration for the music of J. S. Bach. Mendelssohn famously conducted the historic revival of Bach's *St. Matthew Passion* in Berlin in 1829.

His output as composer spanned various genres: piano and organ music, chamber music, symphonies, songs, choral music and oratorios. In 1835, he was appointed Music Director of the Gewandhausorchester Leipzig, a post he held until his untimely death in 1847. He was also one of the founders of the new music conservatory in Leipzig.

Mendelssohn's *Lobgesang* (*Hymn of Praise*) was composed for the 400th anniversary celebration of Gutenberg's invention of the printing press, held in Leipzig in 1840. He himself conducted the first performance on 25 June at Leipzig's Thomaskirche to an audience of 2000. It was reported that the orchestra and the choir consisted of around 500 musicians—a mix of both professionals and amateurs.

Although the work is often called Symphony No. 2, this was not Mendelssohn's designation. At the premiere, he called it simply *Lobgesang*, and when he later revised it for publication, he called it “A Symphony-Cantata on Words from the Holy Scriptures.” What he was seeking was a new way of combining the symphony and cantata, rather than creating a choral symphony in the style of Beethoven's Ninth Symphony. He chose the text himself—mainly from the Book of Psalms in Luther's German Bible—making small amendments to fit the music.

Lobgesang is formed of ten parts: the three-part instrumental *Sinfonia* (No. 1) and the

cantata section (No. 2–10). The *Sinfonia* opens with a noble motto theme announced by the trombones which returns throughout the instrumental section and serves as the basis for the glorious chorus “Alles, was Odem hat, lobe den Herrn (Everything that has breath, praise the Lord)” (No. 2). The cantata section includes the harmonious soprano duet “Ich harrete des Herrn (I waited for the Lord)” (No. 5) and the dramatic tenor solo “Stricke des Todes (The sorrows of death)” in which he sings agitatedly of wandering in the darkness, asking repeatedly “ist die Nacht bald hin? (Will the night soon pass?)” (No. 6). The familiar chorale “Nun danket alle Gott (Now thank we all our God)” (No. 8) begins a cappella and is joined by the orchestra in the second verse. The soprano and tenor duet (No. 9) leads to the final chorus “Ihr Völker! Bringet her dem Herrn (You peoples! Give unto the Lord)” (No. 10) which includes a magnificent fugue and comes full circle with the opening theme.

A

18 & 19, OCT. 2025

Nahoko Gotoh

As classical music critic, Nahoko Gotoh writes regularly for *Bachtrack*, *Ongaku no tomo*, and *Mostly Classic*. She studied musicology in Tokyo and London, and currently teaches part time at the Toho Gakuen School of Music in Tokyo.

PROGRAM

B

Concert No.2045

Suntory Hall

October

9 (Thu) 7:00pm

10 (Fri) 7:00pm

conductor

Herbert Blomstedt | for a profile of Herbert Blomstedt, see p. 57

flute

Sébastien Jacot

concertmaster

Sunao Goko

cover conductor

Eva Ollikainen♦

◆ **Eva Ollikainen:** Eva Ollikainen is Chief Conductor and Artistic Director of the Iceland Symphony Orchestra. Highlights from recent seasons include debuts and appearances with Orchestre National de France, Tonhalle-Orchester Zürich, Wiener Symphoniker, Deutsches Symphonie-Orchester Berlin, Royal Stockholm Philharmonic Orchestra, Los Angeles Philharmonic, Baltimore Symphony Orchestra, BBC Symphony Orchestra, and BBC Philharmonic Orchestra. The 2025/26 season sees Ollikainen debut with the Münchner Philharmoniker, WDR Sinfonieorchester, Rundfunk-Sinfonieorchester Berlin, Oslo Philharmonic, and NHK Symphony Orchestra at the NHK Music Festival, among others.

Edvard Grieg***Aus Holbergs Zeit, suite Op. 40******(Holberg Suite)*** [21']

- I Präludium
- II Sarabande
- III Gavotte – Musette
- IV Air
- V Rigaudon

Carl Nielsen**Flute Concerto** [19']

- I Allegro moderato
- II Allegretto, un poco

— intermission (20 minutes) —

Jean Sibelius**Symphony No. 5 E-flat Major****Op. 82** [30']

- I Tempo molto moderato –
Allegro moderato – Presto
- II Andante mosso, quasi allegretto
- III Allegro molto – Misterioso

- All performance durations are approximate.

Sébastien Jacot, flute



Born in Geneva, Sébastien Jacot studied at the Conservatoire Supérieur de Musique Genève in the class of Jacques Zoon and obtained his master's degree as soloist and in teaching in 2010.

He has received many prizes including first prize at the Kobe, Nielsen, and the ARD competitions.

At the age of eighteen, he was appointed assistant principal flute in the Hong Kong Philharmonic Orchestra, a post where he remained for two years. He then returned to Europe and played in orchestras such as the Orchestra Mozart Bologna under Claudio Abbado, Mahler Chamber Orchestra, Swedish Radio Symphony Orchestra, Konzerthaus Berlin, and the Münchener Kammerorchester.

Jacot has held the position of principal solo flute of the Berliner Philharmoniker, Gewandhausorchester Leipzig, and the Ensemble Contrechamps in Geneva, and the Saito Kinen Orchestra. Besides recitals and masterclasses, Sébastien Jacot is also an enthusiastic chamber music musician, and regularly takes part in international festivals on every continent.

Upcoming highlights include Mahler's Symphony No. 2 with the Saito Kinen Orchestra in Matsumoto, concerts and masterclasses in Korea, and a tour with the Chamber Orchestra of Europe in Vienna, Prague, and Bucharest.

This is his debut with the NHK Symphony Orchestra.

Program Notes

Edvard Grieg (1843–1907)

Aus Holbergs Zeit, suite Op. 40 (Holberg Suite)

Edvard Grieg was born in Bergen in Norway. His musical talent was spotted by violinist Ole Bull and at the age of 15, he was sent to the Leipzig Conservatory where he studied piano with Ignaz Moscheles and composition with Carl Reinecke amongst others. It was after his return to Norway that he began to be interested in the folk music of his homeland and started to adopt a distinctively Norwegian idiom in his music, especially in his songs and piano music such as the *Lyric Pieces*. His large-scale works include the youthful Piano Concerto in A minor, composed in 1868, and the incidental music for Ibsen's play *Peer Gynt*, premiered in 1876, which was later arranged into orchestral suites. In his later years, he settled in Trolldhaugen, a house he built in Bergen.

In 1884, Grieg was commissioned to write music to commemorate the bicentenary of the birth of Ludvig Holberg (1684–1754), a writer, historian, and playwright from Bergen and regarded as the foremost representative of the Norwegian Enlightenment. For this occasion, Grieg composed the suite *Aus Holbergs Zeit (From Holberg's Time)*, which was conceived as a homage to the Baroque period in which the writer lived and worked. Originally written for piano, Grieg arranged it for string orchestra the following year.

The suite consists of a prelude and four baroque dance movements. The toccata-like *Præludium (Prelude)* is vivacious and lively, driven by the propulsive rhythms that run throughout. The *Sarabande* is a slow and solemn dance in triple time and features a poignant passage for three solo celli. The courtly *Gavotte – Musette* is followed by the elegiac *Air*, in which the parts are subdivided to produce a rich and sonorous texture. The final *Rigaudon* is a fast-paced folk dance with the solo violin and solo viola leading the group in the manner of folk fiddlers.

Carl Nielsen (1865–1931)

Flute Concerto

Considered one of the most powerful and individual figures in the early 20th century orchestral music, Carl Nielsen was born on the island of Funen in central Denmark. After studying violin and music theory at the Copenhagen Conservatory, he became a violinist in the opera orchestra of the Royal Theatre in 1889. He subsequently served as Kapellmeister of the theatre and conductor of the Copenhagen Musical Society, and from 1915 he taught at the Copenhagen Conservatory.

As composer, Nielsen wrote his first symphony in 1891–1892, which was premiered by the opera orchestra in 1894. He went on to compose five more symphonies and two operas, *Saul og David* and *Maskarade*. At the same time, he composed many songs and choral music based on Danish folk traditions which are loved and sung by the Danish people to this day.

Nielsen composed three concertos during his lifetime: for violin (1911), flute (1926), and clarinet (1928). The flute concerto was specifically composed for Holger Gilbert-Jespersen, the flutist of the Copenhagen Wind Quintet. After writing a wind quintet for the group in 1922, he decided to write a series of concertos for each of the instruments, but in the event, he was only able to complete two concertos. The flute concerto was premiered by Gilbert-Jespersen in Paris on October 21, 1926, with Ravel and Honegger in the audience. In fact, Nielsen didn't have the time to complete the work, and it had to be performed with a temporary ending. Nevertheless, the work was highly praised. The complete version was premiered in Copenhagen the following year.

The two-movement concerto is scored for solo flute, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 2 horns, bass trombone, timpani, and strings. The first movement is quite free and improvisatory, and the flute wanders about, engaging in dialogues with the various instruments of the lightly textured orchestra. The second movement is more volatile; after presenting the charming pastoral melody, the solo flute moves through many tempos and moods, including a humorous confrontation with the bass trombone just before the end.

Symphony No. 5 E-flat Major Op. 82

Born in the same year as Carl Nielsen, Finnish composer Jean Sibelius was instrumental in putting Finland on the musical map. Brought up in a Swedish speaking family in the town of Hämeenlinna in southern Finland, he started playing the violin at an early age and went on to study at the Helsinki Music Institute (now known as the Sibelius Academy, named after him). Initially he had aspired to become a professional violinist but suffering from serious stage fright, he turned to composition. During his student days in Helsinki, he became interested in the Finnish language and its folk culture.

After studying in Berlin and Vienna, he achieved great success in 1892 with his *Kullervo*, a symphonic work with vocal soloists and male chorus based on the “Kalevala,” the Finnish-language folk epic. In 1899, he composed his Symphony No. 1, which, together with his tone poem *Finlandia* premiered the following year, secured his reputation both nationally and internationally. He composed six more symphonies and several tone poems, as well as incidental music for plays. Although he lived to the age of 91, he stopped composing by his late 60s; his last major work was the tone poem *Tapiola*.

Sibelius composed his Symphony No. 5 to be performed at a concert to celebrate his 50th birthday on 8 December 1915, held in the Great Hall of the University of Helsinki. However, the work didn’t come easily to him. In central Europe, the World War I was being fought, so he couldn’t perform abroad and his royalty from his German publishers had almost come to a halt. Confined to his home Ainola, near Lake Tuusula, he searched for inspiration in the surrounding nature.

Although Symphony No. 5 was favorably received at the premiere, Sibelius was not satisfied and he revised it repeatedly over the next few years, completing the final version in 1919. At one point, Sibelius wrote to a friend that he was working daily on the Fifth Symphony which is now “in a new form—practically composed anew.” The biggest change was that he reduced the four movements of the original version into three by reworking the first two movements into a single structure.

The first movement opens with a horn call which recurs several times as a unifying motif. Structurally, the movement is a fusion of sonata form and scherzo—the climax of the development leads into the dance-like scherzo in triple time. The second movement is pastoral in mood, with chirpy woodwinds above pizzicato strings. The third movement begins with a rushing figure from the strings, which is followed by the majestic horn theme. It is said that Sibelius conceived this melody when one day he saw a flock of swans circling above the lake as he took a walk. The symphony concludes triumphally with six fortississimo chords.

Nahoko Gotoh

For a profile of Nahoko Gotoh, see p. 61

PROGRAM

C

Concert No.2047

NHK Hall

October

24 (Fri) 7:00pm

25 (Sat) 2:00pm

conductor

Herbert Blomstedt | for a profile of Herbert Blomstedt, see p. 57

piano

Leif Ove Andsnes

concertmaster

Yosuke Kawasaki

cover conductor

Tatsuya Shimono♦

♦ **Tatsuya Shimono:** Born in Kagoshima in 1969, Tatsuya Shimono cemented his international reputation as a conductor by winning the First Prize and the Hideo Saito Award at Tokyo International Music Competition for Conducting in 2000 and the First Prize at the 47th Besançon International Competition for Young Conductors in 2001. Since then he has guest conducted major orchestras in Japan and abroad. Shimono has appeared with major orchestras such as Orchestra dell'Accademia Nazionale di Santa Cecilia, Czech Philharmonic, SWR Symphonieorchester, Orchestre National des Pays de la Loire, Südwestdeutsche Philharmonie Konstanz (now Bodensee Philharmonie Konstanz) and Silicon Valley Symphony. He is Principal Guest Conductor of Sapporo Symphony Orchestra, Music director of Hiroshima Wind Orchestra, and Conductor Laureate of Hiroshima Symphony Orchestra. He is also Permanent Conductor of the NHK Symphony Orchestra from October 2023.

Johannes Brahms Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83 [47']

- I Allegro non troppo
- II Allegro appassionato
- III Andante
- IV Allegretto grazioso

— intermission (20 minutes) —

Johannes Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90 [38']

- I Allegro con brio
- II Andante
- III Poco allegretto
- IV Allegro

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Leif Ove Andsnes, piano



With his commanding technique and searching interpretations, the celebrated Norwegian pianist Leif Ove Andsnes has won acclaim worldwide, playing concertos and recitals in the world's leading concert halls and orchestras. An avid chamber musician, he is the founding director of the Rosendal Chamber Music Festival, co-artistic director of the Risør Chamber Music Festival for nearly two decades and served as music director of California's Ojai Music Festival in 2012. He has released more than 50 CDs, for which he has received the Gramophone Award seven times.

Highlights of recent seasons have included performances of Beethoven's "Emperor" Concerto with the New York Philharmonic, London Symphony Orchestra, National Symphony Orchestra in Washington, Leipzig Gewandhausorchester, Orchestra dell'Accademia Nazionale di Santa Cecilia, and on tour with the Oslo Philharmonic, and Rachmaninov's Piano Concerto No. 3 with ensembles including the Philadelphia Orchestra, Pittsburgh Symphony Orchestra, Orchestre de Paris, and with the Berlin Philharmonic at Baden-Baden's Easter Festival. Recitals featuring Chopin's *24 Preludes* with piano sonatas by Norwegians Edvard Grieg and Geirr Tveitt have also taken him across Europe and the U. S.

Leif Ove Andsnes collaborates regularly with the NHK Symphony Orchestra, most recently in October 2023, and he has three times been voted "Most Memorable Soloist" by the audience.

Program Notes

Johannes Brahms (1833–1897)

Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83

Born in Hamburg in northern Germany, Johannes Brahms grew up in relatively humble circumstances. It was probably his father, a jobbing musician, who gave him his first music lessons. The young Johannes learnt to play the piano, cello, and horn, and later studied piano and composition with Eduard Marxsen. After leaving school, he earned his living as a pianist and conducting amateur choirs. His early breakthrough came in 1853 when he visited the Robert and Clara Schumann in Düsseldorf and played them his music. Recognizing his talent as a composer, Schumann hailed Brahms as the next great hope for German music in an essay and introduced him to a publisher. His next big success was the premiere of *Ein deutsches Requiem* (*A German Requiem*) in Bremen in 1868 which helped establish Brahms as a composer of major significance abroad. In 1872, he took up the director of concerts of the Gesellschaft der Musikfreunde and settled permanently in Vienna. From then on, he could concentrate more on composition, although he continued to tour as pianist and conductor.

Brahms composed his Piano Concerto No. 2 in B-flat major in 1881, more than twenty years after his first piano concerto in D minor which was coolly received at the

premiere. By this time, he had two symphonies under his belt, and he was at the height of his creativity. The concerto is a monumental work with an added Scherzo to the normal three-movement form, which brings it “closer to the genre of symphony than any other major concerto of the 19th century,” according to one Brahms scholar. Yet the work has moments of chamber music-like intimacy, and the piano often merges into orchestral fabric rather than the piano and orchestra opposing each other. Brahms himself played the solo part at the premiere in Budapest on 9 November 1881, with Sándor Erkel conducting, and it became one of the works he performed most frequently. The work was dedicated to Marxsen, his first composition teacher.

The first movement opens with a beautiful horn call and the piano responds, leading to a cadenza-like solo. After the orchestra presents the two main themes, the piano joins in and together they weave the themes into a dramatic narrative. The D minor Scherzo, indicated *Allegro appassionato*, is formed of an urgent first theme and a lyrical second theme, with a new idea introduced in the D major trio section. The third movement is framed by the song of the solo cello; in between, the piano presents an intimate melody accompanied by clarinets and cellos. The *Allegro grazioso* finale has a bright, skipping figure for the piano as the principal rondo theme, with Hungarian-like music in between.

Johannes Brahms

Symphony No. 3 F Major Op. 90

It is well known that Brahms’s First Symphony (premiered in 1876) took over twenty years to complete, but thereafter he was able to produce his three subsequent symphonies with relative fluency and ease, composing them within a span of eight years.

Much of the work on the Third Symphony was done between May and October of 1883 in the idyllic spa town of Wiesbaden in Germany. It was customary for Brahms to spend the summer months in the resort towns of Germany, Austria, or Switzerland, to relax, go for walks, and concentrate on composing. The symphony was completed after his return to Vienna and premiered there by Hans Richter and the Vienna Philharmonic on 2 December 1883, which was a resounding success.

Clara Schumann wrote to him enthusiastically about the symphony: “What a harmonious mood pervades the whole! All the movements seem to be of one piece, one beat of the heart, each one a jewel! From start to finish one is wrapped about with the mysterious charm of woods and forests.”

It is the most compact of Brahms’s four symphonies, and one could say that the narrative is less straightforward and less dramatic compared to his two previous symphonies. Often the tonality fluctuates between the major and minor, and unusually, the work ends *pianissimo*—in fact, not only the finale but all the movements in this symphony end quietly.

The first movement, *Allegro con brio*, opens with a rising motif F–A flat–F in the woodwind, which already suggests a major/minor ambiguity. This motif appears throughout the symphony in various guises. The main theme, launched by the violins, is thought to be a quote from a motif in the first movement of Robert Schumann’s *Rhenish* Symphony. This is followed by a gentle second theme which is played by the clarinet, then by

violas and oboe. All these themes are elaborated in the development section with typical Brahmsian ingenuity.

The pastoral second movement proceeds as a gentle dialogue between the winds and strings. The clarinets and bassoons lead both the chorale-like opening theme and the lyrical second theme.

The third movement is perhaps the best-known part of this symphony. The melancholic melody, introduced by the cellos, appears six times on various instruments, including solo horn and oboe. Clara Schumann memorably described the movement as “a pearl, but it is a grey one, dipped in tears of woe.”

The Allegro finale takes a trajectory from F minor to F major, but it ends not in triumph like his first symphony, but in a mood of retrospection. There is plenty of drama and struggle along the way, but the coda looks back nostalgically to the opening movement and brings the work to a quiet close.

C

24 & 25, OCT. 2025

Nahoko Gotoh

For a profile of Nahoko Gotoh, see p. 61

The Subscription Concerts Program 2025–26

2025 10	A	Concert No. 2046	Stravinsky <i>Symphony of Psalms</i> Mendelssohn <i>Symphony No. 2 B-Flat Major Op. 52, Lobgesang (Hymn of Praise)*</i> Herbert Blomstedt, conductor Christina Landshamer, soprano* Marie Henriette Reinhold, mezzo soprano* Tilman Lichdi, tenor* Swedish Radio Choir, chorus Michel Tabachnik, cover conductor	Ordinary Youth \$ 15,000 \$ 7,000 A 12,500 A 6,000 B 10,000 B 5,000 C 8,000 C 4,000 D 6,500 D 3,000 E 4,500 E 2,000
		October 18 (Sat) 6:00pm 19 (Sun) 2:00pm		
		NHK Hall		
	B	Concert No. 2045	Grieg <i>Aus Holbergs Zeit</i> , suite Op. 40 (<i>Holberg Suite</i>) Nielsen Flute Concerto Sibelius <i>Symphony No. 5 E-flat Major Op. 82</i> Herbert Blomstedt, conductor Sébastien Jacot, flute Eva Ollikainen, cover conductor	Ordinary Youth \$ 12,000 \$ 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750
		October 9 (Thu) 7:00pm 10 (Fri) 7:00pm		
		Suntory Hall		
	C	Concert No. 2047	Brahms <i>Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83</i> Brahms <i>Symphony No. 3 F Major Op. 90</i> Herbert Blomstedt, conductor Leif Ove Andsnes, piano Tatsuya Shimono, cover conductor	Ordinary Youth \$ 13,000 \$ 6,500 A 11,000 A 5,200 B 8,500 B 4,000 C 7,000 C 3,500 D 5,600 D 2,000 E 3,500 E 1,700
		October 24 (Fri) 7:00pm 25 (Sat) 2:00pm		
		NHK Hall		
2025 11	A	Concert No. 2048	Messiaen <i>Trois petites liturgies de la Présence Divine</i> (<i>Three Little Liturgies of the Divine Presence</i>)* Holst <i>The Planets</i> , suite Op. 32 Charles Dutoit, conductor Yu Kosuge, piano* Motoko Oya, ondes martenot* Tokyo Opera Singers, female chorus	Ordinary Youth \$ 13,000 \$ 6,500 A 11,000 A 5,200 B 8,500 B 4,000 C 7,000 C 3,500 D 5,600 D 2,000 E 3,500 E 1,700
		November 8 (Sat) 6:00pm 9 (Sun) 2:00pm		
		NHK Hall		
	B	Concert No. 2050	Schumann <i>Manfred</i> , incidental music Op. 115—Overture Mozart <i>Piano Concerto No. 25 C Major K. 503</i> R. Strauss <i>Ein Heldenleben</i> , symphonic poem Op. 40 (<i>A Hero's Life</i>) Rafael Payare, conductor Emanuel Ax, piano	Ordinary Youth \$ 12,000 \$ 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750
		November 20 (Thu) 7:00pm 21 (Fri) 7:00pm		
		Suntory Hall		
	C	Concert No. 2049	The 150th Anniversary of Maurice Ravel's Birth Ravel <i>Pavane pour une Infante défunte (Pavane for a Dead Princess)</i> Ravel <i>Le tombeau de Couperin</i> , suite (<i>The Grave of Couperin</i>) Ravel <i>Daphnis et Chloé</i> , ballet (<i>Daphnis and Chloe</i>)* Charles Dutoit, conductor Nikkiai Chorus Group, chorus*	Ordinary Youth \$ 13,000 \$ 6,500 A 11,000 A 5,200 B 8,500 B 4,000 C 7,000 C 3,500 D 5,600 D 2,000 E 3,500 E 1,700
		November 14 (Fri) 7:00pm 15 (Sat) 2:00pm		
		NHK Hall		
2025 12	A	Concert No. 2051	Shostakovich <i>Violin Concerto No. 1 A Minor Op. 77</i> Zemlinsky <i>Die Seejungfrau</i> , fantasy (<i>The Mermaid</i>) Fabio Luisi, conductor Leonidas Kavakos, violin	Ordinary Youth \$ 11,000 \$ 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400
		November 29 (Sat) 6:00pm 30 (Sun) 2:00pm		
		Program A of the December subscription concerts will be held in November. NHK Hall		
	B	Concert No. 2052	Fujikura <i>Ocean Breaker</i> for Orchestra—in memoriam Pierre Boulez (2025) [Commission Work for NHK Symphony Orchestra / World Premiere] Franck <i>Variations symphoniques</i> for Piano and Orchestra (<i>Symphonic Variations</i>)* Saint-Saëns <i>Symphony No. 3 C Minor Op. 78, Symphonie avec orgue (Organ Symphony)</i> Fabio Luisi, conductor Tom Borrow, piano* Takeshi Kondo, organ	Ordinary Youth \$ 12,000 \$ 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750
		December 4 (Thu) 7:00pm 5 (Fri) 7:00pm		
		Suntory Hall		
	C	Concert No. 2053	Chopin <i>Piano Concerto No. 1 E Minor Op. 11 or No. 2 F Minor Op. 21</i> Nielsen <i>Symphony No. 4 Op. 29, The Inextinguishable</i> Fabio Luisi, conductor The Winner of the 19th International Chopin Piano Competition, piano	Ordinary Youth \$ 11,000 \$ 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400
		December 12 (Fri) 7:00pm 13 (Sat) 2:00pm		
		NHK Hall		

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2026
01

A Concert No. **2054**

January

17 (Sat) 6:00pm

18 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Mahler Symphony No. 6 A Minor, *Tragische (Tragic)*

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B Concert No. **2056**

January

29 (Thu) 7:00pm

30 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Mussorgsky / Shostakovich *Khovanshchina*, opera
—*Dawn over the Moscow River*, prelude
Shostakovich Piano Concerto No. 2 F Major Op. 102
Prokofiev Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100

Tugan Sokhiev, conductor
Kanon Matsuda, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. **2055**

January

23 (Fri) 7:00pm

24 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Debussy *Prélude à l'après-midi d'un faune (Prelude to the Afternoon of a Faun)*
Dutilleux Cello Concerto, *Tout un monde lointain... (A Whole Distant World...)*
Rimsky-Korsakov *The Tale of Tsar Saltan*, suite Op. 57
Stravinsky *The Firebird*, ballet suite (1919 edition)

Tugan Sokhiev, conductor
Michiaki Ueno, cello

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

2026
02

A Concert No. **2057**

February

7 (Sat) 6:00pm

8 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Schumann Symphony No. 3 E-flat Major Op. 97, *Rheinische (Rhenish)*
Wagner *Götterdämmerung*, opera—*Siegfried's Rheinfahrt*,
Siegfried's Tod und Trauermarsch, *Brünnhilde's Schlussgesang*:
*Starke Scheite schichtet mir dort**
(*Twilight of the Gods—Siegfried's Rhine Journey*,
Siegfried's Funeral March, *Brünnhilde's Immolation*)

Philippe Jordan, conductor
Tamara Wilson, soprano*

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

B Concert No. **2059**

February

19 (Thu) 7:00pm

20 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Dvořák Violin Concerto A Minor Op. 53
Brahms Serenade No. 1 D Major Op. 11

Jakub Hrůša, conductor
Josef Špaček, violin

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. **2058**

February

13 (Fri) 7:00pm

14 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series
Kodály Variations on a Hungarian Folksong *The Peacock*
Hummel Trumpet Concerto E Major
Mussorgsky / Konoe *Pictures at an Exhibition*, suite

Gergely Madaras, conductor
Kazuaki Kikumoto (Principal Trumpet, NHKSO), trumpet

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2026
04

A Concert No. **2060**

April

11 (Sat) 6:00pm

12 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Haydn Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIIb-1
Bruckner Symphony No. 9 D Minor

Fabio Luisi, conductor
Jan Vogler, cello

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B Concert No. **2061**

April

16 (Thu) 7:00pm

17 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Mozart Clarinet Concerto A Major K. 622
Mahler Symphony No. 5 C-sharp Minor

Fabio Luisi, conductor
Kenji Matsumoto (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C Concert No. **2062**

April

24 (Fri) 7:00pm

25 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series
Toyama *Divertimento for Orchestra*
Prokofiev Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26
Ifukube *Ballata Sinfonica (Symphonic Ballad)*
Britten *Peter Grimes*, opera—*Four Sea Interludes* Op. 33a

Tatsuya Shimono, conductor Kyohel Sorita, piano

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2026
05

A	Concert No. 2064	Brahms Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102 Brahms / Schönberg Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25	Ordinary	Youth
	May 23 (Sat) 6:00pm 24 (Sun) 2:00pm	Michael Sanderling, conductor Christian Tetzlaff, violin Tanja Tetzlaff, cello	S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
B	Concert No. 2063	NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series Kazuo Yamada <i>Also sang ein Jüngling</i> , small symphonic poem (<i>Thus Sang a Young Man</i>) Hartmann <i>Concerto funebre (Funereal Concerto)*</i> Sugata <i>Symphonic Overture</i> Op. 6 Hindemith <i>Mathis der Maler</i> , symphony (<i>Matthias the Painter</i>) Kazuki Yamada, conductor Suyoen Kim, violin*	Ordinary	Youth
	May 14 (Thu) 7:00pm 15 (Fri) 7:00pm		S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
C	Concert No. 2065	Vasks Commission Work for NHK Symphony Orchestra [Japan Premiere] Shostakovich Symphony No. 4 C Minor Op. 43	Ordinary	Youth
	May 29 (Fri) 7:00pm 30 (Sat) 2:00pm	Andris Poga, conductor	S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

2026
06

A	Concert No. 2067	Wagner <i>Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel</i> (<i>The Mastersingers of Nuremberg—Prelude</i>) Mozart Piano Concerto No. 17 G Major K. 453 Bartók <i>Concerto for Orchestra</i> Jaap van Zweden, conductor Conrad Tao, piano	Ordinary	Youth
	June 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm		S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
B	Concert No. 2066	Honegger <i>Pastorale d'été</i> , symphonic poem (<i>Summer Pastoral</i>) Berlioz <i>Les nuits d'été</i> , songs Op. 7 (<i>Summer Nights</i>) Iber <i>Escales (Ports of Call)</i> Debussy <i>La mer</i> , three symphonic sketches (<i>The Sea</i>) Stéphane Denève, conductor Gaëlle Arquez, mezzo soprano	Ordinary	Youth
	June 4 (Thu) 7:00pm 5 (Fri) 7:00pm		S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
C	Concert No. 2068	Sibelius <i>Andante festivo</i> Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47 Rakhmaninov Symphony No. 3 A Minor Op. 44 Tadaaki Otaka, conductor HIMARI, violin	Ordinary	Youth
	June 19 (Fri) 7:00pm 20 (Sat) 2:00pm		S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

WEB
連載

NHK交響楽団の あゆみ 1951-2026 岩野裕一

THE HISTORY OF
NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

WEB連載
「NHK交響楽団のあゆみ」は
こちらから



2026年の「N響100年」に向けて、ホームページで「NHK交響楽団のあゆみ」を連載中です。執筆は、「王道楽土の交響楽『日本のピアノ100年』などの著書でも知られる、音楽評論家・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。 https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview_contents.html

伝えるチカラ



- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

NHK財団は、
子法人の「NHK交響楽団」と共に、
社会貢献事業を進めていきます。

ステラ
net



NHK財団の最新情報はこちらから

NHK こども 音楽クラブ

「NHKこども音楽クラブ」は、
NHKとNHK交響楽団で
実施している出前授業。
全国各地の学校を訪ね
ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に
目を輝かせる子どもたち
そして、素顔のN響メンバーに
出会えるコンサートです。

出前授業の動画が
ホームページで
ご覧いただけます



<https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/>

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

N響の社会貢献

クラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしています。幼稚園、飲食店、ショッピングセンターで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に着した活動を行っています。最近では各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えています。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される『NHKのど自慢』では、審査の結果を伝える『鐘』をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

子どもたちの未来を育む

“N響が学校にやってきた”をキャッチフレーズにNHKと共催して、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHK子ども音楽クラブ」、子どもと大人が夏休みに名曲を楽しむ「N響ほっとコンサート」、N響練習所のある東京都港区の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これからも力を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「指揮研究員」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「N響アカデミー」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

井手 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨
コントラバス：桑原孝太郎 クラリネット：白井宏典
打楽器：菊池幸太郎
(2025年10月1日現在)

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、ク

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、海外での演奏にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演への外国人留学生招待にも取り組んでいます。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や医療などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたざさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN 関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

役員等・団友

役員等

理事長	中野谷 公一							
常務理事	三溝敬志	大曾根 聡子						
理事	相川直樹	内永ゆか子	岡田知之	杉山博孝	銭谷眞美	田辺雅泰	團 宏明	毛利 衛
監事	春原雄策 濱村和則							
評議員	稲葉延雄	江頭敏明	樺山絃一	菅原 直	清野 智	田中宏暁	檀 ふみ	坪井節子
	根本拓也	前田昭雄	三浦 惺	山名啓雄	渡邊 修			

事務局

演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	技術主幹	芸術主幹				
岩渕一真	高木かおり	高橋 啓	森下文典	黒川大亮	野村 歩	吉田麻子	尾澤 勉	西川彰一
丸山千絵	沖あかね	上原 静	猪股正幸	三浦七菜子	浅田武士	杉山真知子		
石井 康	内山弥生	木村英代	吉賀亜希	宮崎則匡	目黒重治	長津紗弥		
利光敬司	徳永匡哉	小倉康平						

団友

	黒柳紀明	中竹英昭	宮本明恭	トランペット	瀬戸川 正	事務局
	公門俊之	三原征洋			百瀬和紀	
	齋藤真知恵	村山 弘	オーボエ	井川明彦		稲川 洋
名誉コンサート マスター	酒井敏彦	山田雄司	青山聖樹	北村源三	ピアノ	入江哲之
	清水謙二		北島 章	来馬 賢		金沢 孝
堀 正文	鈴木弘一	チェロ	関山幸弘	津堅直弘		小林文行
	田渕 彰		浜 道晃	榑本浩規		清水永一郎
	田中 裕	岩井雅音	茂木大輔	福井 功	理事長	中馬 究
コンサートマスター	鶴我裕子	木越 洋		佛坂咲千生		出口修平
	中瀬裕道	齋藤鶴吉	クラリネット			芳賀由明
海野義雄	永峰高志	三戸正秀				望戸一男
川上久雄	根津昭義	銅銀久弥	磯部周平	トロンボーン		野島直樹
篠崎史紀	堀江 悟	丹羽経彦	加藤明久			日向英実
徳永二男	前澤 均	平野秀清	横川晴児	伊藤 清		木田幸紀
堀 伝	宮里親弘	藤本英雄		神谷 敏		森 茂雄
山口裕之	武藤伸二	茂木新緑	ファゴット	栗田雅勝		今井 環
	村上和邦			三輪純生		根本佳則
ヴァイオリン	蓬田清重	コントラバス	岡崎耕治	吉川武典		今村啓一
			霧生吉秀			
板橋 健		井戸田善之	菅原恵子	チューバ	役員	
梅澤美保子	ヴィオラ	志賀信雄				
大澤 淨		佐川裕昭				
大林修子		小野富士	ホルン	多戸幾久三		加納民夫
大松八路		新納益夫		原田元吉		唐木田信也
金田幸男			大野良雄			斉藤 滋
川上朋子		フルート	中島大之			原 武
木全利行			樋口哲生	打楽器		山崎大樹
窪田茂夫		菅原 潤	松崎 裕			
		細川順三	山田桂三	有賀誠門		
				岡田知之		

フィルハーモニー2025年10月号 | 第97巻 第7号
2025年10月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (財)NHK財団
取材・編集: (株)アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず

いつでも どこでも あなたのそばに

NHK ONE

NHKのすべてがひとつに
ワンストップのインターネットサービス

2025年10月1日からスタート!

番組の同時配信、見逃し・聴き逃し配信、ニュースの記事や動画などを
スマホやパソコン、ネット対応テレビなど、みなさまの環境に合わせてご提供します。

NHK ONE

NHKのすべてがひとつに ワンストップのインターネットサービス

WEB
(HP)

同時配信

ラジオ同時配信

見逃し配信

ラジオ聴き逃し配信

番組関連情報

(ニュース記事・動画など)

アプリ

NHKプラス

テレビ用・スマホ用

ニュース・防災

スマホ用

for School

スマホ用

らじる★らじる

スマホ用

ゴガク

スマホ用

(グレーの部分は受信契約対象外のサービスで、これまでと変わらずご利用いただけます)

※記載のアプリ名は10月1日に変更の可能性があります ※国際放送サービス[NHK WORLD-JAPAN]はこれまでと変わらずご利用いただけます

「NHK ONE」のサービス利用にあたって

- ・世帯ですでに受信契約を締結されている場合は、別途のご契約や追加のご負担は必要ありません。
- ・受信契約を締結されていない方が利用された場合は、ご契約の手続きが必要です。

※「らじる★らじる」など、ラジオ関連サービスは受信契約の対象外です

詳しくはこちら

NHK ONE インフォメーションサイト
www.nhk.or.jp/nhkone



NHK



新発見 初期大津絵「普賢菩薩像」部分（『目の眼』2025.10・11月号掲載／古美術天宝堂）



〈紙版&デジタル版発売中〉

雑誌『目の眼』10・11月号

特集 **名古屋刀剣博物館 サムライコレクション**

小特集「大津絵研究の歴史を塗りかえる2つの新発見」クリストフ・マルケ×増田圭吾
秋のアートフェア（東京美術倶楽部、京都美術倶楽部、金沢美術倶楽部ほか）
リレー連載「美の仕事」村治佳織（クラシックギタリスト）

*紙版&デジタル版 2,420円税込

*目の眼デジタル読み放題サービス 月額880円税込



骨董 古美術の楽しみをつたえるウェブマガジン
menomeonline.com

目の眼

明電舎 presents
名曲コンサート
2025

響

指揮.. 大友直人
Naoto Ohno, conductor



©Shohei Kitahara

音楽で描くノスタルジア、
ドラマティックな心の旅



チエロ.. 鳥羽咲音
Sakura Toha, cello

©Shohei Kitahara

ドヴォルザーク / チェロ協奏曲 口短調 作品104
Dvořák / Cello Concerto B Minor Op. 104

シベリウス / 交響曲 第2番 二長調 作品43
Sibelius / Symphony No. 2 D Major Op. 43

2025年10月29日 [水] 7:00pm | サントリーホール

■ 発売開始: 6月27日 [金] 10:00am ■ N響定期会員先行発売: 6月23日 [月] 10:00am

■ 料金 (税込)

一般		ユースチケット(29歳以下)	
SS	¥8,500	SS	¥4,200
S	¥6,500	S	¥3,200
A	¥5,000	A	¥2,500
B	¥3,500	B	¥1,700
C	¥2,500	C	¥1,200

※定期会員は一般料金から10%割引

■ 前売所

- WEBチケットN響: <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド: 0570-02-9502
- サントリーホール チケットセンター: 0570-55-0017
suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ: pia.jp/t/nhkso
- e+(イープラス): eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット: l-tike.com/nhkso

[お問い合わせ]

N響ガイド 0570-02-9502

営業時間: 10:00am ~ 5:00pm (営業日はN響ホームページをご覧ください)

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。 ※定期会員割引・先行発売のお取り扱いはいはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。 ※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。 ※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。 ※未成年のご入場はお断りしています。 ※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。 ※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

特別協賛:



株式会社 明電舎

主催:



NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

放送100年

N響

アニメ

青のオーケストラ

スペシャル・コンサート

NHKSO × ANIME BLUE ORCHESTRA SPECIAL CONCERT

2025年

12月8日(月) 7:00pm

NHK ホール(東京・渋谷) 途中休憩ありの2時間程度の公演です

クリスマス・メドレー

(もみびとごぞりて〜アヴェ・マリア〜ハレルヤ・コラス / 萩森英明編)
【主人公・青野一が所属する高校オーケストラ部と合唱部がクリスマス・コンサートで演奏】(Season2)

©阿久井真 / 小学館 / NHK-NEP・日本アニメーション

ドヴォルザーク / 交響曲 第9番「新世界から」第4楽章

【オーケストラ部定期演奏会のメイン曲】(Season1)

チャイコフスキー / 花のワルツ (バレエ組曲「くるみ割り人形」)

【同じ定期演奏会の演奏曲】(Season1)

パッハ / 2つのヴァイオリンのための協奏曲 から ◆

【ヴァイオリン初心者のお青野律子が母への贈り物に青野と演奏】(Season2)

メンデルスゾーン / ヴァイオリン協奏曲 第1楽章 から ◆

【小学生のお青野がコンクールで演奏】(Season2)

サン・サーンス / バッカナール (歌劇「サムソンとデリラ」)

【オーケストラ部が全日本コンクールで演奏】(Season2)

芥川也寸志 / 交響管弦楽のための音楽

【青野たちがジュニア・オーケストラの選抜メンバーとして取り組む作品】(Season2)

発売開始日 10月10日(金) 10:00am

料金 税込 / 全席指定

	S席	A席	B席	C席
一般	¥9,000	¥8,000	¥6,000	¥5,000
ユースチケット(29歳以下)	¥4,500	¥4,000	¥3,000	¥2,500

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。
初回ご利用時に年齢確認のための「コース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
※N響定期会員の先行販売および割引はございません。
※申し渡した際にはN響ガイドにお申し込みください。
※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
※未就学児のこ入場はお断りしています。

主催：NHK / NHK 交響楽団 協力：小学館



指揮：
キンボーイ・イシ



ヴァイオリン：
東 亮汰 ◆

(劇中で主人公・青野一の演奏を担当)



ヴァイオリン：
山田友里恵 ◆

(劇中で秋音律子の演奏を担当)



司会：
林田理沙
アナウンサー

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502

(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。



nhkso.or.jp

出演者プロフィール・公演詳細はN響ホームページで公開中

放送!100年 ひろくを思う、みんなのメディアへ。

かんぽ生命 presents



N響第九

Special Concert

2025年12月26日(金)

7:00pm | サントリーホール

Friday, December 26, 2025 Suntory Hall

バッハ / 前奏曲とフーガ 変ホ長調 BWV 552

Bach Prelude and Fugue E-flat Major BWV 552

オルガン: 近藤 岳

Takeshi Kondo, organ

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, Choral

一般:

S ¥20,000 A ¥16,500 B ¥13,000 C ¥9,000

ユースチケット(29歳以下):

S ¥10,000 A ¥8,200 B ¥6,500 C ¥4,500

※全て税込価格

チケット発売開始: 9月23日(火・祝) 10:00am

N響定期会員先行発売日: 9月19日(金) 10:00am

※定期会員は一般料金から10%割引

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502

(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

指揮: レナード・スラットキン

Leonard Slatkin, conductor



ソプラノ

中村 恵理

Eri Nakamura,
soprano



メゾ・ソプラノ

藤村 実穂子

Mihoko Fujimura,
mezzo soprano



テノール

福井 敬

Kei Fukui, tenor



バリトン

甲斐 栄次郎

Eijiro Kai, baritone

合唱: 新国立劇場合唱団

New National Theatre Chorus, chorus

前売所

- WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド 0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017
suntory.jp/HALL
- チケットぴあ pia.jp/nhkso
- e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット l-tike.com/nhkso



WEBチケット
N響

●ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●悪い季節など希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。●N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合の返金、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

NHK交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts

99th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

交響曲

ベートーヴェン

交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, Choral

第9



©Nico Rodamel

指揮：レナード・スラットキン



ソプラノ：中村 恵理
メゾ・ソプラノ：藤村 実穂子



テノール：福井 敬
バリトン：甲斐 栄次郎

合唱：新国立劇場合唱団

2025年

12/20 (土) 4:00pm | 12/21 (日) 2:00pm

12/23 (火) 7:00pm* | 12/24 (水) 7:00pm

NHKホール NHK Hall

*23日公演はNHK/NHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。
プログラムは他の日程と同一です。

お問い合わせ

N響ガイド：0570-02-9502 (営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

NHK厚生文化事業団：03-3476-5955 (23日公演のみ、平日10:00am～6:00pm)

主催：NHK/NHK交響楽団
主催(23日)：NHK/NHK厚生文化事業団

協賛：みずほ証券株式会社
はごろもアーズ株式会社
株式会社明電舎

チケット発売開始

9月23日(火・祝) 10:00am

N響定期会員先行発売日：9月19日(金)10:00am

料金(税込)

一般 S ¥17,000 A ¥13,500 B ¥10,000 C ¥7,500 D ¥5,000

ユースチケット (29歳以下) S ¥8,500 A ¥6,750 B ¥5,000 C ¥3,750 D ¥2,500

※定期会員は一般料金から10%割引

前売所



WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

N響ガイド 0570-02-9502

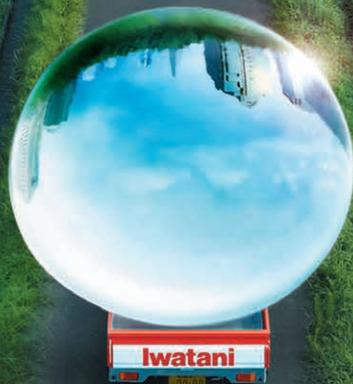
チケットぴあ pia.jp/nhkso

e+(イープラス) eplus.jp/nhkso

ローソンチケット l-tike.com/nhkso

●ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド(23日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国約340万世帯の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2025年5月現在、自社調べ)

Iwatani

岩谷産業株式会社